

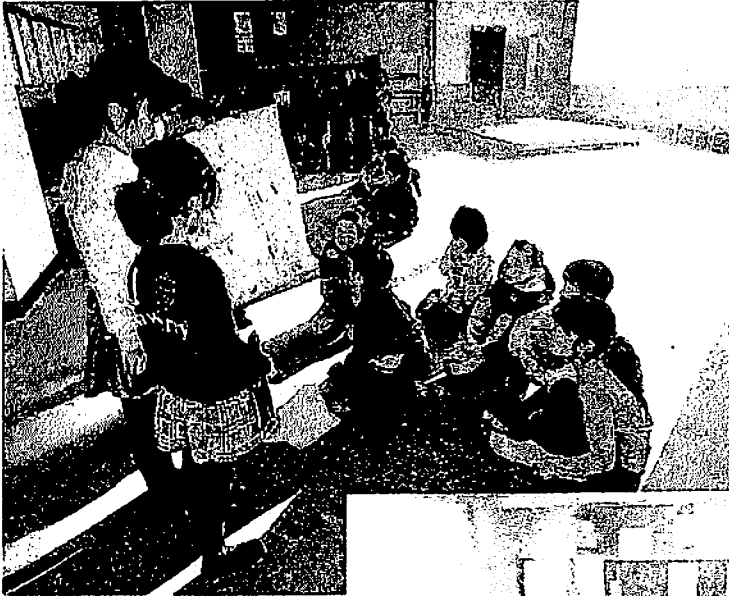
平成29年8月23日

第67次 印旛地区教育研究集会

国語科「読むこと」分散会 提案資料

研究主題

目的をもって読み、
思いや考えを表現しようとする児童の育成



四街道市立和良比小学校 国語研究部

目次

	ページ
1 研究主題 -----	1
2 主題設定の理由 -----	2
(1) 社会の動向と学習指導要領から	
(2) 学校教育目標から	
(3) 児童の実態から	
3 研究の目標 -----	3
4 研究の仮説 -----	3
仮説 1	
仮説 2	
5 研究の方法 -----	4
6 研究の実際	
実践① 第2学年 1年生に『さけクイズ大会』をひらこう -----	4
教材名『さけが大きくなるまで』	
実践② 第6学年 感想を伝え合おう -----	15
教材名『川とノリオ』	
実践③ 第4学年 物語の世界を想像して、音読したりえんじたりしよう --	26
教材名『そろそろ』	
7 研究のまとめ -----	27
(1) 成果	
(2) 今後の課題	

資料編

1 研究主題

目的をもって読み、思いや考えを表現しようとする児童の育成

<読む姿>

読み取る・解釈するだけでなく、読むことを通して自分の思いや考えをもち、それらを言葉や文字に表そうとする。

<表現しようとする姿>

「伝えたい」という主体的な思いや考えをもちながら、正しく、相手に分かりやすく伝えようとする。

○「正しく」…叙述を基にして読む

自分なりの考えや思いを児童がもつには、文章を叙述に沿って読み、内容を正しくとらえていることが前提となる。読み取ったことをもとにして想像力を働かせ、自分の思いや考えを児童が意識すること、それを伝えるためにどんな言葉を使えばよいか、適切な言葉を選ぶことも大切である。叙述に沿って読み取り、自分の思いや考えを適切な言葉を選んで表せるようにしていきたい。

○「相手に分かりやすく」…相手意識を持つ

相手意識を持つことによって、児童の伝え方や言葉に対する関心を高めることができる。相手に分かってもらうにはどのような方法で、どのような言葉を用いて伝えればよいかと考えることによって、より多くの表現方法や言葉を知るよさが分かるであろう。相手によく分かってもらうためにそれらを用いて伝える経験を重ねられるようにしていきたい。

<めざす児童像>

	低学年	中学年	高学年
音読	・話のまとまりや様子、気持ちが伝わるように音読できる子	・聞き手に内容や様子が伝わるように音読できる子	・自分の思いや考えが表れるように音読できる子
読む	・文章の内容の大体を理解し、大切な部分を書いたり読んだり動作化したりできる子	・文章の内容の中心や登場人物の気持ちの変化についての叙述を見つけ、引用したり要約したりでき、それに対する自分の考えを述べることができる子	・適切な引用をしたり、叙述を基に要旨をまとめたりして、自分の意見を明確に述べることができる子
交流	・文章の内容と自分の経験を結びつけて、具体的に相手に伝えられる子	・相手の表現と自分の考えとの違いに気付くことができる子	・考えを発表し合う際、筆者の考えや友達の考えと比べて共通点や相違点を述べることができる子

			・筆者の考えを、根拠をもとに述べることができる子 ・登場人物の気持ちの変化を理解し、適切な表現で説明できる子
--	--	--	---

2 主題設定の理由

(1) 社会の動向と学習指導要領から

2015年に実施されたOECDの調査結果が2016年12月に示された。日本は「科学的応用力」「数学的応用力」が改善されたのに対し、「読解力」は低下した。活字離れでまとまった文章を読む機会の減少や語彙量の不足を原因とする指摘がある。また、探究型授業について課題があるとの指摘もある。

現行の学習指導要領ではこれまでの理念を継承し、「生きる力」の育成を目指してきた。次期学習指導要領についての審議のまとめを見ると、授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが記されている。以下引用する。

「主体的な学び」

…学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

「対話的な学び」

…子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

「深い学び」

…各教科等で習得した知識や考え方を活用し（すなわち、「見方・考え方」を働かせ）、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、想像したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

この視点に立った授業改善を行うことで、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。

国語科においても、これらの視点をもって授業改善を図り、どのように学ぶのか、学び方を児童が知ることができる授業を目指す必要がある。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「明日を切り拓き、心豊かでたくましく生きる子どもの育成－知と心と体のバランスのとれた子どもを目指して－」である。目指す児童像を「やさしく（豊かな心） かしこく（学ぶ喜び） たくましく（健康と体力）」とし、主体的

に取り組み、学ぶ喜びを味わうことができる子どもを育成しようとしている。主体性をもつためには、児童が自分自身で考えることができなければならない。それには、考えるもとになる知識等が必要で、それらは読んだり聞いたり体験したりする活動を通して理解することで得られるものである。言語学習を中心とする国語科においては、読む力を高めることは、他の教科や領域の学習の理解を確かなものにするためにも重要になってくる。国語科で読む力を高め、読むことを通して思いや考えを表現できることを目標とすることは、本校の目指す児童像を具体化するためにも重要になると考える。

(3) 児童の実態から

本校は、平成3年に創立し、四街道駅から徒歩圏内の30年弱を経過した新興住宅地に位置する。宅地造成もある程度落ち着き、計画的に整備された道路や広い公園がある恵まれた環境にある。子どもたちは素直で明るくのびのびとしている。県標準学力検査の国語科を見ると、平成27年度は2学年以外は「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に比べて「読むこと」の領域の正答率が低く、どの学年も7割弱から7割前半にとどまっていた。平成28年度は、1学年と4学年、6学年で正答率が7割後半となり、6学年は他の領域よりも正答率が高くなった。昨年度全校で国語科の授業実践に取り組んだ成果が表れたと考える。しかし、全体的には、他の領域と比べて正答率が低い学年が多いのは変わっていない。初めて読む長文の内容や問題が質問している内容、選択肢に書かれている文章の内容を限られた時間で正しく読めていないという実態は改善されたとは言い難い。また、記述式の問題は特に個人差が大きい。平成28年度の全国学力・学習状況調査の国語科では、A問題B問題とも、「読むこと」については全国・県平均を上回っていたが、読み取って記述する複合的な問題については全国平均を下回った。一度で文章を正しく読むこと、読み取ったことをもとに考え、それを表現できるようにするのは昨年度に引き続いての課題であると考え。

以上のことから、本年度も本校では国語科において、読むことに重点をおいて研究を進めていくこととした。

3 研究の目標

○読むことの授業づくりの工夫を通して、目的をもって読むことや思いや考えを表現しようとすることができる児童の育成を目指す。

4 研究の仮説

仮説1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

(手だて)

①単元を通して目的をもって主体的に読もうとすることのできる指導計画を立てる。

- ・単元のめあてに合った学習のゴールを設定する。
- ・学習計画表を掲示し、目的に向かってどのように学習するのか明示する。
- ・ゴールのモデルを作成して示す。

- ・探求する課題をもてるような発問を工夫する。
- ②単元のねらいに沿った言語活動を設定する。
- ・読み取ったことや、思いや考えが表現できるような学習活動を工夫する。
効果的な交流活動を検討する。
 - ・読むことや、読むことを通して思いや考えを表現することを積み重ねていくことができるワークシートやノートづくりをする。
 - ・学校司書と連携し、並行読書がしやすい環境を整える。

仮説 2

言語を増やしたり獲得したりするための活動を工夫していけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとすることができるだろう。

(手だて)

- ①読み方、表現方法について習得したり語彙を増やしたりする活動やその設け方を検討し、計画的、継続的に行う。(授業時間内に行うもの、日常活動として行うもの)
例 語彙集め(「言葉のノート」)、詩の音読、かるたづくり、ショートスピーチ、日記、ことわざ調べ、短作文
- ②様々な音読方法を用いて音読する。
- ③用語(「学ぶ言葉」)や難語句について理解する機会を設ける。

5 研究の方法

○実態調査

- ・単元に入る前に児童の実態を把握する。

○授業展開の工夫

- ・仮説検証のための単元を作成し、授業展開で仮説の検証とそれに関する協議を行う。
- ・児童の変容を指導者が把握し、手だてが有効だったかを検討する。

6 研究の実践

実践①

第2学年 1年生に『さけクイズ大会』をひらこう 『さけが大きくなるまで』

単元構成(11時間扱い)

学習 過程	時 配	学習内容と学習活動	評価規準(観点)【方法】<仮説>
見 出 す	2	・生きもののクイズの例題を示し、さけの成長についてのクイズをするという学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。 ・単元名やリード文を読んで、順序に気を付けて読むという	並 行 ・クイズをつくることに興味を持ち、学習の見通しをもとうとしている。(関心・意欲・態度) 【行動観察】<仮説1> ・並行読書を通して「時」「場所」「大きさや様子」を表す様々な表

調 べる 深 め る	6	学習の見通しをもつ。 1年生に『さけクイズ大会』をひらこう。	読 書	現方法を習得している。(言語) 【ワークシート・行動観察】 ＜仮説2＞
		問題提示文（問いかけの文）を見つけ、何について読み進めて行くか知る。		さけが大きくなる様子を進んで読もうとしている。(関心・意欲・態度)【行動観察】＜仮説1＞
		2枚目、3枚目の写真について説明するために、3つのキーワード（時、場所、大きさや様子）をまとめる。 - さけの気持ちになり、吹き出しに書いたり動作化したりして表現する。		- さけの成長の過程に興味をもち、文章を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)【行動観察】＜仮説1＞ - 順序や場所を表す言葉を見つけながら読んでいる。(読むこと)【ワークシート・発表】＜仮説1＞
		4枚目の写真について説明するために、3つのキーワードをまとめる。 - さけの気持ちになり、吹き出しに書いたり動作化したりして表現する。		- 順序や場所を表す言葉を書き抜きながら読んでいる。(読むこと)【ワークシート・発表】＜仮説1＞ - 成長の過程の時々でのさけの行動や成長の様子が分かる言葉を探している。(言語)【ワークシート・発表】＜仮説1＞
		5枚目、6枚目の写真について説明するために、3つのキーワードをまとめる。 - さけの気持ちになり、吹き出しに書いたり、動作化したりして表現する。		- さけの成長の過程に興味をもち、文章を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)【行動観察】＜仮説1＞ - さけが「いつ、どこで、どのように」育っていくかを整理しながら読んでいる。(読むこと)【ワークシート・発表】＜仮説1＞
		- 海でのさけの生活の様子が分かるように、3つのキーワードをまとめる。 - さけの気持ちになり、吹き出しに書いたり動作化したりして表現する。		さけの成長について時系列でとらえる言葉を探しながら読んでいる。(読むこと)【ワークシート】＜仮説1＞
		教科書の6枚の写真を使ってさけの大きくなる様子をさけになったつもりで説明する。 (2時間扱い)		時や様子の変化を表す言葉を用いながら、写真を使ってさけの成長の様子を説明している。 (読むこと)【発表】＜仮説1＞
ま	3	自分が選んだワークシートの		クイズづくりに興味をもち、進ん

と め あ げ る	3つのキーワードを基にクイズを作成する。 ・できたクイズを友達と見合う。	で文章を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)【行動観察】 <仮説1> ・時や様子の変化を表す言葉を用いながら、クイズを作成している。 (読むこと)【ワークシート】 <仮説1>
	・1年生に合ったクイズかどうか話し合う。 ・クイズの問題と答え・解説が本文の同じ段落にあるかや問題は1年生向けになっているかを話し合う。	・時や様子の変化を表す言葉を用いながら、解説を作成している。 (読むこと)【ワークシート】 <仮説1> ・さけの成長の過程の時々での行動や成長の様子に注意しながら話している。(読むこと)【発表】 <仮説1>
	・1年生にクイズ大会を行う。	・さけの成長の過程について季節や場所、さけの様子などの言葉を適切に使って話している。(読むこと)【発表】<仮説1> ・クイズを1年生に積極的に出そうとしている。(関心・意欲・態度)【行動観察】<仮説1>

仮説に対する手だてと実践

仮説1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

手だて①

単元を通して目的をもって主体的に読もうとすることのできる指導計画を立てる。

○単元のめあてに合った学習のゴールを設定する。

主たるめあて

・季節や場所、さけの様子など、情報を時系列でとらえる言葉を児童が見つけて読めるようにしたい。

児童の実態

・読むこと、書くこと、発表することが苦手な子が35%いる。
・読書やクイズは好き。
・鮭について知っている子は6割。

順序をおさえながら
繰り返し読みたくなる
活動は？ゴールは？

単元のゴール

1年生に『さけクイズ大会』をひらく。

単元の学習計画表の掲示物

さけが大々くなるまで

○ゴールのモデルを作成して示す。

クイズくりシート

名前()

答え

七十センチメートルほど。

とい

かいせつ

大人のさけの大きさは、
何センチメートルほどですか。

さけは北の海にすむ、大きな
魚です。七十センチメートルほども
ある大きな魚です。



手だて②

単元のねらいに沿った言語活動を設定する。

○読み取ったことや、思いや考えが表現できるような学習活動を工夫する。

「時」「場所」「大きさやようす」3つのキーワードを本文から探し、教科書に傍線を引く。

↓

ワークシート①に書きこむ。読み取ったことを動作化する。

↓

読み取ったことをもとに写真を見ながらワークシート②に書き込み、写真の説明をする。

ワークシート①

あかちゃんかなんか生まれるかな

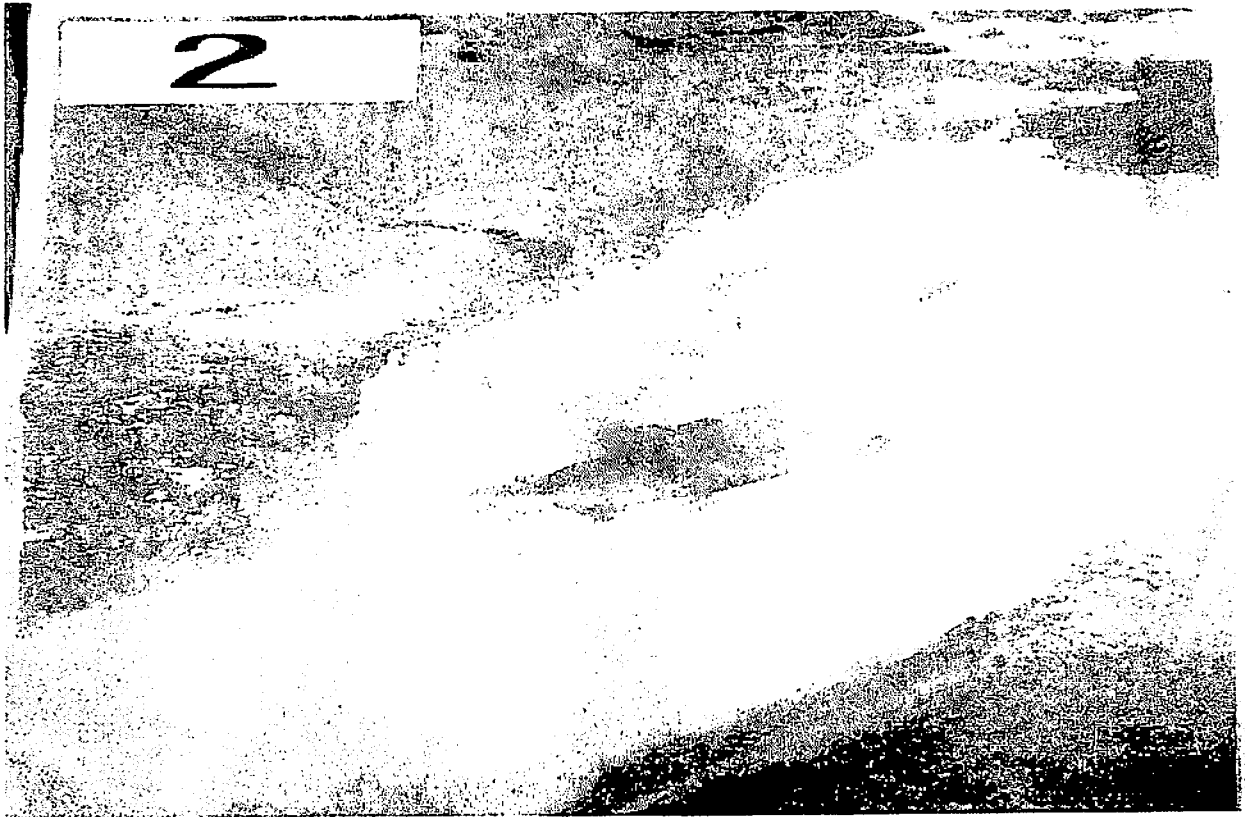
時	場所	大きさ・ようす
× 秋になど	× 北の海	× ヒナピンチメートルほど
・川になど	・海から川	・いきおいよく川をのぼる
・川上へ川上	・水のきらい	・三メートルぐらい
× 川ぞい	・おびれをうけるわけて	
× くらみ		
× たまご		

大人のヤッケの大きさを知ろう

ワークシート②

写真の説明を裏面のワークシートに書きこむ。「時・場所・大きさやようす」のキーワードを書きながら確認する。それから説明を書く。

表 (写真)



裏 (写真の説明)

名前()

(二) まい目のしやしん

時	場しよ	大きさや ようす
午後二時	川上へ川上へ すしんが合さる	大きな山

しやしんのせつ明文

川上へ川上へ来ます。そして三メートルぐらいのたきを上ります。川上へ川上へとすすんで行きます。

○学校司書と連携し、並行読書がしやすい環境を整える。

司書は市立図書館や市内小・中学校からも本を集めている。

教室に生きもの本を置き、朝の読書等で読むように呼びかけた。(資料編参照)

【第2学年 1年生に『さけクイズ大会』をしよう『さけが大きくなるまで』の成果と課題】

※学習を終えての児童の感想

- ・学習前は国語の学習が「楽しくない」と答えていた児童の感想

「1年生に発表する時はじめきんちょうしたけれど、しばらくしたらきんちょうしなくなった。」

「さけの発表が楽しかった。さけのせいちょうがわかってうれしかった。」

「大きな声でとても楽しくできた。特にさけのクイズを出したりさけのくらしを発表したりするのが楽しかった。またやりたい。」

「1年生ができるまでクイズをやりきった。」

<考察>

単元のゴールである1年生へのクイズ大会を終えて、さけについて1年生に説明できたことやクイズを出すことができたことに達成感をもつことができたと思われる。

<仮説1について>

- 1年生に向けてクイズ大会を行うことを単元のゴールとして示したことで、児童が相手意識や目的をもって読み取りを飽きずに行うことができた。また、クイズを出すことができるようにするために内容を詳しく読み取ろうとすることができた。
- 指導者がクイズのモデルを示したことでクイズを作る観点が明確になり、全員がクイズを作ることができた。
- 答えから問題を作成できるようなワークシートを活用することによって、クイズ作りがしやすくなった。
- ▲個々の児童に合わせられるよう、数種類のワークシートが用意できるとよかった。
- ▲2年生の発達段階を考えると、読み取った部分についてその都度クイズを作って積み重ねておき、最後に1年生にわかりやすいクイズを工夫させた方がよかった。
- 学校司書の協力のもと、生き物の生活についての本を並行読書できるようにしたところ、これまであまり読んだことの無かった生き物のくらしに興味をもって読むことができた。また、生き物はそれぞれ生活にも特徴があり、それが表されている言葉が「さけが大きくなるまで」と同じようにキーワードになることに気付くことができた児童がいた。

※ワークシートの活用を通して変容した児童

A児（男子）

- ・国語の意識調査で国語の学習は「あまり楽しくない」と回答していた。理由は「字を書くのがむずかしいから」であった。
- ・1枚目のワークシートでは、「3メートルぐらい」の滝を上ることを書き落としていたので指導者が指摘して書き入れた。
- ・写真の説明の文を書く際にはワークシート②を生かして自ら大きさも入れて書くことができた。
- ・クイズを作る際にはとても意欲的で5問できた。3つのキーワード全種類についてクイズを作ることができた。その中の1問に自分の読み落とした「3メートルぐらい」を解説に入れることができた。

↓

読み取りが十分でなかったところも写真の説明を行うことで補うことができ、クイズの解説にも入れることができた。ワークシートを活用して繰り返し読むことができたことで、キーワードであることに気付き、内容をとらえて1年生にも伝えようとするができるようになった。

A児の書いた

ワークシート1枚目

あかちゃんが生まれ
るかな。

×		秋	×	時
くみ	水	上へ川	北の海	場しよ
うま	た	い	ヒナ	大きさ・ようす

大人のやけの大きさを矢。ろ。う。

さけが大きくなるまでの 名前

指導者に朱書されて
大きさを 書き加えた。

名前（

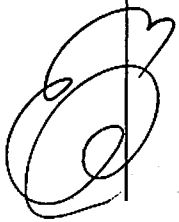
(2) まい目のしやしん

時	秋になろ
場しよ	●海から川 ●川上川上
大きさを ようす	●いきこいさ かかわものば る。 ●三メートル

自ら書く。

しやしんのせつ明文

秘になるころさには海から川へ
いき三メートルぐらいのたきを
いきおいよくのぼる。そしてそれは
川上へ川上へと進みます。



クイズづくりシート

○「時」のキーワードを答えにしたもの

クイズづくりシート

名前(

答え

秋になるころ

とい

海から川へいくときはいづう

かいせつ

解説にも自ら大きさについて書く。

秋になる。さきには海から川へ
 いきニメートルぐいのたきを
 いきおいよくのぼりき。
 えしてきけはいきおいよく川
 上へ川上へとすすんでいきまふ。



○「場所」のキーワードを答えにしたもの

サケは北の海にすむ大きな魚
でも十センチメートルほどもある魚
です。

かいせつ

とい

大のサケはどのくらい大きい魚
でしょう。

答え

北の海

クイズづくりシート
名前()

○「大きさ」のキーワードを答えにしたもの

サケは北の海にすむ大きな
サカナで十センチメートル
ほどもあります。

かいせつ

とい

大のサケはどのくらい大きい
でしょう。

答え

十センチメートルくらい

クイズづくりシート
名前()

※その他の児童がつくったクイズ

B児…友達との交流が得意ではないが、1年生に出すクイズを考えることができた。

クイズづくりシート

名前 ()

答え
三才せんたくしぐらひ。

とい
三才せんたくしぐらひ。

かいせつ
かいせつ

三才せんたくしぐらひ。



C児…読み取ることが難しかったが、モデルを参考に、クイズを書くことができた。

クイズづくりシート

名前 ()

答え
七才せんたくしぐらひ。

とい
七才せんたくしぐらひ。

かいせつ
かいせつ

七才せんたくしぐらひ。



実践②

第6学年 感想を伝え合おう『川とノリオ』

単元構成（10時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（観点）【方法】〈仮説〉
見出す	2	○教材文を読み、初発の感想を書く。 ・時・場・人物に着目 ○モデル文を読み、単元の見通しを持つ。 ブックレビューを書いて、物語の紹介をしよう。	・教材文に興味を持ち、初発の感想を書こうとしている。（関心・意欲・態度）【ノート・発言】 ・モデル文を読み、学習の見通しを持とうとしている。（関心・意欲・態度）【行動観察】 <仮説1> ・並行読書と短文作りを通して、読書への興味を広げたり、表現の効果を習得したりしている。（言語）【行動観察・ノート】<仮説2>
調べる深める	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、登場人物の行動について考え、『川とノリオ』のあらすじを捉える。	・登場人物の行動から、あらすじをとらえている。（読むこと）【発言・ノート】
	3	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、優れた叙述をもとに、登場人物のおかれた状況と心情の変化について考える。	・優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえている。（読むこと）【発言・ノート・教科書へのサイドライン】<仮説1>
	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」を関連付けて考える。	・「ブックレビュー」を書くために、これまでに学習したことから材料を探している。（読むこと）【発言・ノート】
	2	○『川とノリオ』の「ブックレビュー」を書き、友だち同士で交流し、相互評価をする。	・「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」をもとに、『川とノリオ』のブックレビューを書いている。（読むこと）【ブックレビュー】<仮説1><仮説2> ・友だちと「ブックレビュー」を読み合い、良いところを認め合い、意見交流をしている。（読むこと）【交流カード・発言】<仮説1>
まとめあげる	1	○自分で選んだ物語の「ブックレビュー」を書き、本とともに図書室に置く。	・選んだ物語を読み、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」などをもとに「ブックレビュー」を書いている。（読むこと）【ブックレビュー】<仮説1>

仮説 1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

手だて①

単元を通して目的をもって主体的に読もうとすることのできる指導計画を立てる。

○物語のあらすじをとらえ、優れた叙述から登場人物の心情の変化を読み、さらに、読書活動を充実させるための単元構成

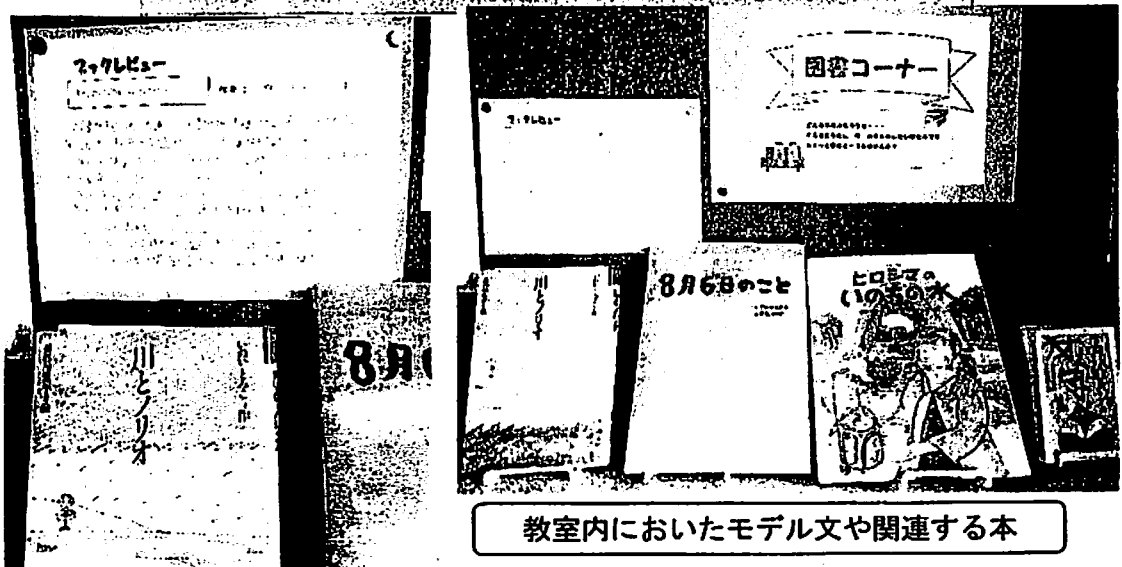
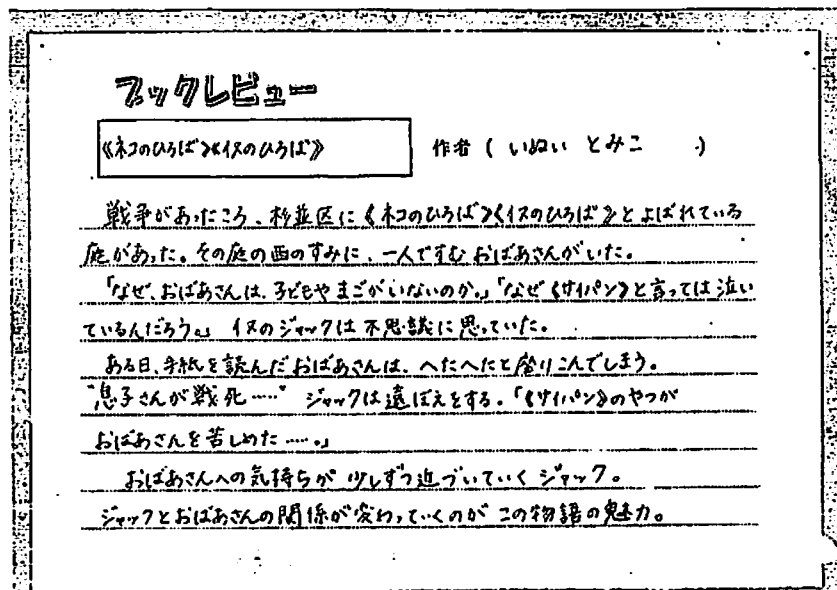
『川とノリオ』は、優れた叙述がたくさんあり、その効果を考えることで、登場人物の心情の変化を深く読むことにつながると考える。そこで、第一次、第二次、第三次で構成した。

第一次では、ブックレビューのモデル文を提示し、紹介文を書いて図書室に置くという具体的な見通しを持たせることで、関心・意欲を高める。また、紹介文のモデルを提示することは、感想を伝え合うことに苦手意識を持っている児童が、どのような活動なのかをイメージしやすくなると考えた。

第二次では、ブックレビューを書くことを見通すことを毎時間確認し、登場人物の行動や優れた叙述をもとに、あらすじや登場人物の心情の変化を捉えることができるようにした。

第三次では、物語を読み、紹介文を書いた経験を生かして、『川とノリオ』以外の物語の紹介文を書き、読書活動が広がるようにする。

モデル文『《ネコのひろば》《イヌのひろば》』（いぬいとみこ作）



○単元のめあてに合った学習のゴールを設定する。

○学習計画を掲示し、目的に向かってどのように学習するのか明示する。

意欲をもち、さらに目的を明確にして読み深めるために、『川とノリオ』の「ブックレビュー」(紹介文)を書く活動をゴールとした。どのような活動をしていくのかを示し、毎時間の活動内容を明確にすることで、学習の見通しをもたせた。

学習計画		感想を伝え合おう。	
『川とノリオ』			
学習の 時間	学習内容	①	②
①	○ 『川とノリオ』を読んで、感想をもち。	○ ブックレビューを書くことを見通して、『川とノリオ』のあらすじをたどる。	○ ブックレビューを書くことを見通して、すぐれた表現から登場人物の心の変化について考える。
②	○ これからの学習の計画を確認しよう。	○ ブックレビューを書くことを見通して、『川とノリオ』のあらすじをたどる。	○ ブックレビューを書くことを見通して、すぐれた表現から登場人物の心の変化について考える。
③	○ ブックレビューについて知ろう。	○ ブックレビューを書くことを見通して、『川とノリオ』のあらすじをたどる。	○ ブックレビューを書くことを見通して、すぐれた表現から登場人物の心の変化について考える。
④	○ ブックレビューを書くことを見通して、『川とノリオ』のあらすじをたどる。	○ ブックレビューを書くことを見通して、『川とノリオ』のあらすじをたどる。	○ ブックレビューを書くことを見通して、すぐれた表現から登場人物の心の変化について考える。
⑤	○ ブックレビューを書くことを見通して、すぐれた表現から登場人物の心の変化について考える。	○ ブックレビューを書くことを見通して、『川とノリオ』のあらすじをたどる。	○ ブックレビューを書くことを見通して、すぐれた表現から登場人物の心の変化について考える。
⑥	○ 『川とノリオ』のブックレビューを書き、友だち同士で読み合う。	○ 『川とノリオ』のブックレビューを書き、友だち同士で読み合う。	○ 『川とノリオ』のブックレビューを書き、友だち同士で読み合う。
⑦	○ 自分で選んだ物語のブックレビューを書き、教室や図書室に置く。	○ 自分で選んだ物語のブックレビューを書き、教室や図書室に置く。	○ 自分で選んだ物語のブックレビューを書き、教室や図書室に置く。

その内容が終わるごとに、☆(はなまる)をつけ、毎時間の学習内容を明確にした。

手だて②

単元のねらいに沿った言語活動を設定する。

○読み取る内容の焦点化

長い文章を読むことに抵抗をもっている児童のために、焦点化して読み進めて行くようにした。その手だてとして、初発の感想をまとめる際には「時・場・人物」をポイントとし、単元の終わりに書くブックレビューでは、「あらすじ」「具体的な良さ(優れた叙述など)」「登場人物の心情の変化」にポイントを置いて指導をした。

初発の感想

初発の感想	
川とノリオ	いぬいとみこ
題名から想像すること	
川とノリオは多分、	
川とノリオは二緒に生きている。	
ノリオはずっとこの川が好き。	
ノリオはどの変わったんだろう。	
成長した。	
二さいから小学三年生	
感想	
82ページ4行目	
B29をおそれていることがとてもよくわかるから。	
86ページ9行目	
お父さんが帰って来たといつとところを聞いたとき	
ノリオとおじいちゃんはおいて帰ってくることをぞんざい	
たんだろうなと思った。	

感想

「幸せな二歳の神様だった」私はこれを戦争を知らない苦しみと知らない幸せな時間だと思ふ。母さんは毎日泣いてた。ことをハリーオは知らない。昔を知らない。

ハリーオははじめてなんとも知らなかったけど、大きくなるといってハリーオはいろいろなことを知る。

感想

お母さんといっしょに一番身で、一番大切な人となつて、はにかみ成長して、ここには感動した。

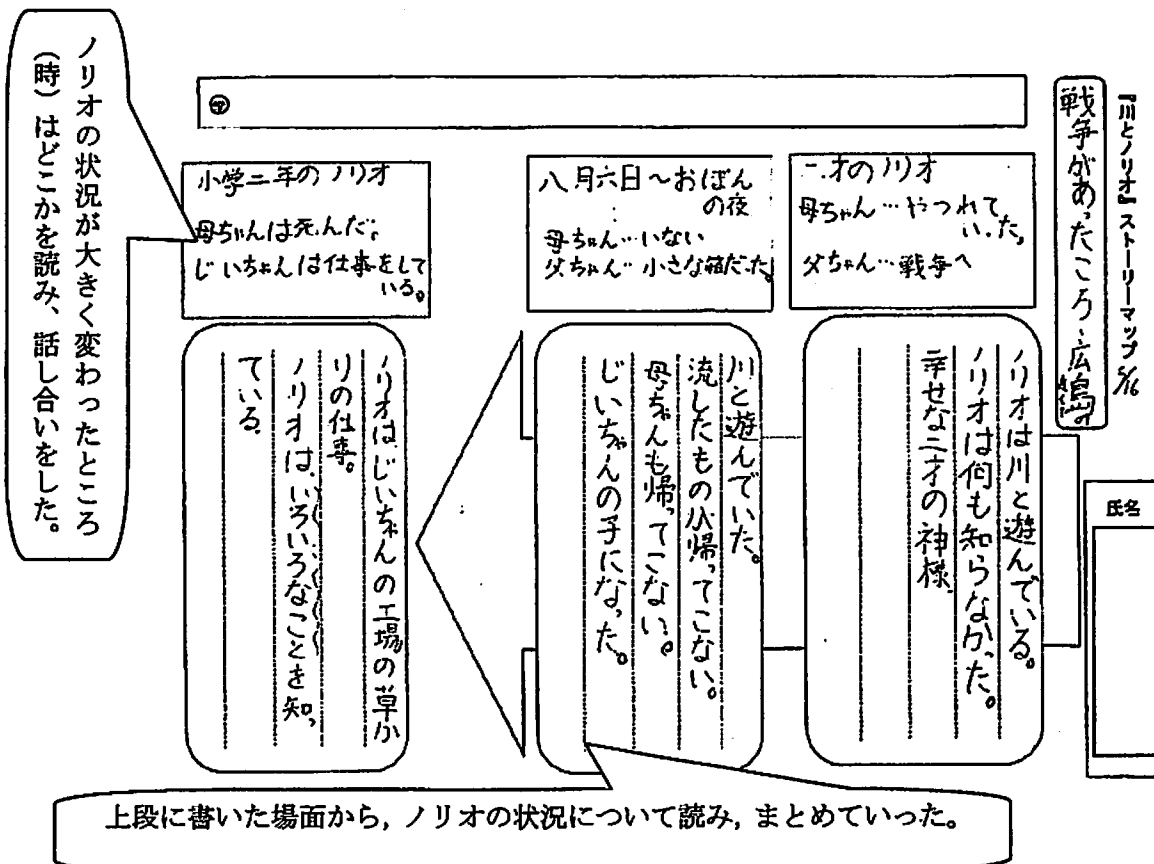
ブックレビューを書くにあたり、条件を与え、物語を読むときに焦点化して読むことができるようにした。

6月14日 水曜日

学習の計画を確認しよう。
★クイズとは
(本の評価)
この物語を「紹介」
あらまし(登場人物)
表現からわかる登場人物の心の変化
感想(具体的に、印象的なこと)
題名と作者名
自分の言葉で表現
ブックレビューとは、物語の紹介のこと。

○思考ツールを活用し、視覚的に考えを整理する。

思考ツール「ストーリーマップ」を用いて視覚化し、あらすじや登場人物の心情の変化をとらえ、主体的に表現できるようにした。



ストーリーマップを使いながら、あらすじをまとめた児童のノート

川とノリオのあらすじ

戦争があつたころ、広島にノリオがいた。ノリオは戦争のことなど知らなかった。戦争のことがあつたとき、ノリオは川と遊んでいた。八月六日の朝、空が暗くなり、大きな音がした。母ちゃん、父ちゃん、みんなが死んだ。ノリオは一人だけ生き残った。母ちゃん、父ちゃん、みんなが死んだ。ノリオは一人だけ生き残った。母ちゃん、父ちゃん、みんなが死んだ。ノリオは一人だけ生き残った。

八月六日、広島に新たな爆撃機が飛んできた。ノリオは川と遊んでいた。八月六日の朝、空が暗くなり、大きな音がした。母ちゃん、父ちゃん、みんなが死んだ。ノリオは一人だけ生き残った。母ちゃん、父ちゃん、みんなが死んだ。ノリオは一人だけ生き残った。

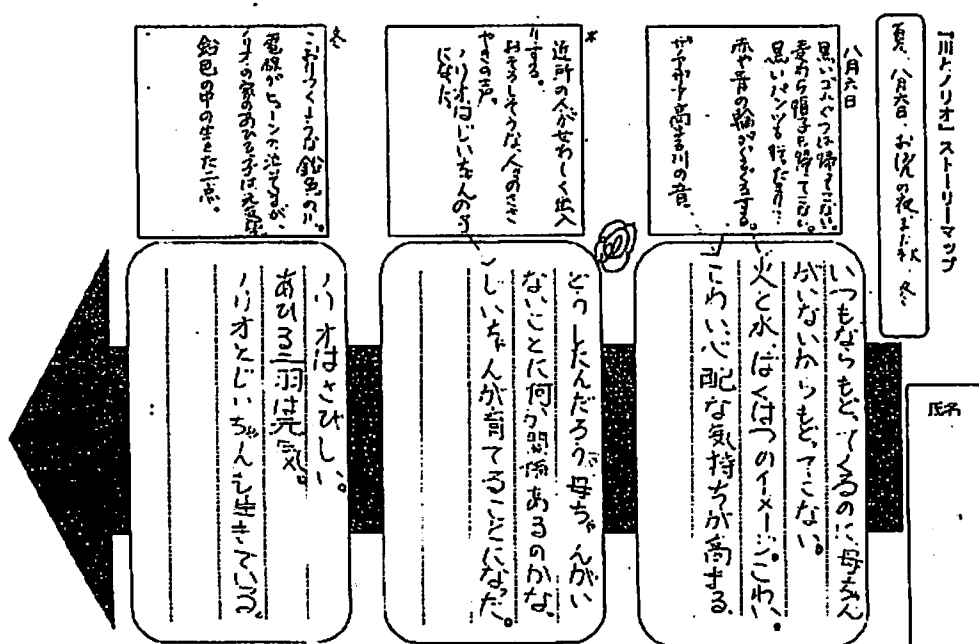
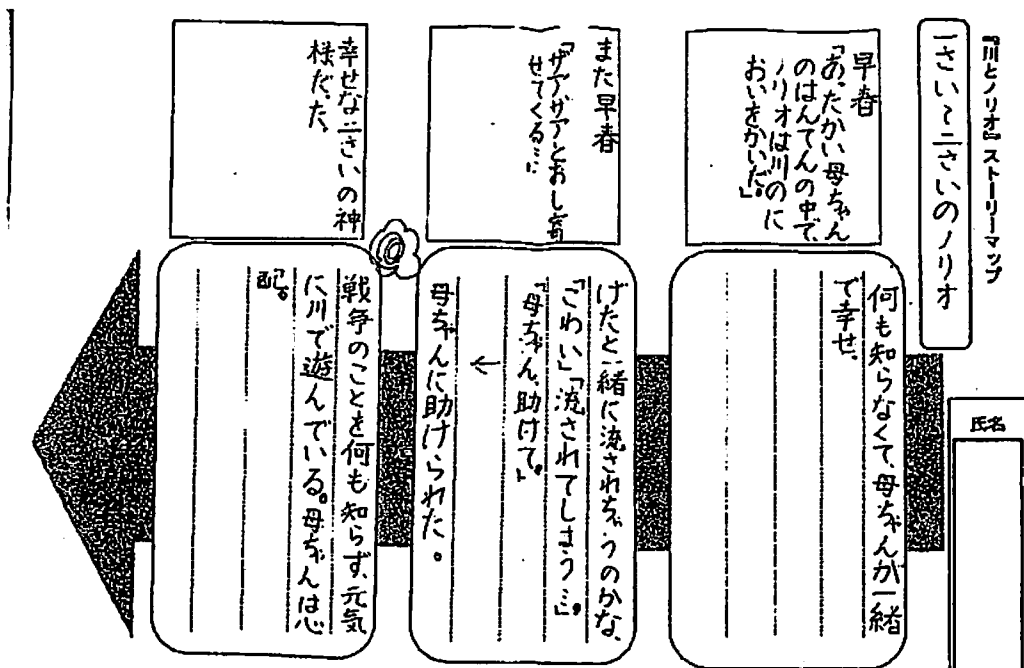
小学二年になったノリオは、母ちゃん、父ちゃん、みんなが死んだ。ノリオは一人だけ生き残った。母ちゃん、父ちゃん、みんなが死んだ。ノリオは一人だけ生き残った。

ノリオはじいちゃん、おばあちゃん、母ちゃん、父ちゃん、みんなと遊んでいた。流したものは帰ってこない。母ちゃんも帰ってこない。じいちゃんの子になった。

○登場人物の心情の変化を読むための手だて

登場人物の心情がわかる叙述がどの表現なのかを探ることができない児童が多くいた。そこで、登場人物の心情について考えさせたい叙述を指導者からピックアップし、児童に示すようにした。

また、表現の効果を考えさせるために、似ている表現（たとえば「八月六日」と「また、八月の六日が来る」）や、文の一部を隠す文（「サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れ。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れよう。」の最後の「よう」を隠す。）などを使って、その表現の仕方の違いを比べさせることで、登場人物のおかれている状況や心情の変化を読み取らせた。



『川とノリオ』ストーリーマシナリ 6/22

また八月の六日！ エピローグ！

氏名

また八月の六日が来る。
じいちゃんノリオだまってる。

成長したものがころがついた
母ちゃんが死んだことがわか
っている。
悲しい。苦しい。

ノリオは昔いがうスの
いけらも、じいちゃんと母の光に
投げてまたすんぽにまぶ
しい日の光が、ノリオの
耳に返ってきて
ノリオは涙を思ひ出す。

悲しいことを思い出したくな
いくやしい。
現実にもどってきた。
仕事を思い出してつづけよう。
かんばらなくて。

ノリオは、かまをまた
使い出す。
さる、さる、さる、
母ちゃん帰れ
さる、さる、さる、
母ちゃん帰れよう。

母ちゃんに帰ってきてほしい気
持ちは強い。
心の中で生きている。
現実を信じたくない。

エピローグ：川は日の光を照り返しなみら、いともち休まず流れ続ける。

ノリオはどう変化したのか。
最初ノリオの戦争など知らず何も考えずに生活し
ていたが成長するにつれ仕事に対する気持ちを家族に対す
る気持ちもだんだん変わってきた。

ノリオはどう変化したのか。
のりこで表すと、
なにもわかんない状態（1）から少しずつ今の状態
うを理解するようになった（2）
2さいから小学三年まではのりこで成長したためには
なにも思わなかった。

○興味・関心を広げる読書活動

『川とノリオ』のブックレビューを書いたあとに、自分で選んだ物語のブックレビューを書く活動を取り入れ、読書の幅を広げた。また、時間外ではあるが、戦争に関する本を教室に置いたり、読み聞かせを実施したりし、興味・関心を高める。戦争に関する本のみでなく、優れた表現が書かれている本も準備しておき、指導者から紹介するようにした。

仮説2

言語を増やしたり獲得したりするための活動の工夫をしていけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとすることができるだろう。

手だて③

用語や難語句について理解する機会を設ける。

○優れた表現の効果の理解と活用

「比喩」「体言止め」「オノマトペ」「リフレイン」「倒置法」「対句的表現」について、知っているものが少ないという実態があった。優れた表現について知ることと、その表現を「川とノリオ」の文中から探すことからはじめていく。その表現があることでどんな効果があるか、または、その表現を使わないとどんな違いがあるかについて考えさせた。

手だて①

読み方、表現方法について習得したり語彙を増やしたりする活動やその設け方を検討し、計画的、継続的に行う。

○「言葉のノート」の作成

国語の学習やドリルタイムに、学習用語や教材文の語句調べをし、「言葉のノート」に記録させた。(資料編参照)

【6学年 感想を伝え合おう『川とノリオ』の成果と課題】

※児童の学習を終えての感想や学習への取り組みについて、成果を確かめるために以下のような意識調査を行った。

調査人数 36名

設 問	児童の回答
①「川とノリオ」の学習は楽しかったですか。	○楽しかった 13人
	○少し楽しかった 19人
	・ブックレビューを書くのが楽しかった 12人
	・ノリオの気持ちがわかった・ノリオの気持ちを知らたくて考えるのが楽しかった 9人
	・戦争の時代のことがわかった 3人
	・話の内容が興味深かった 3人
	・ストーリーマップに書くこと 3人
	・あらすじをまとめること 3人
	・音読をしたことが楽しかった 1人
	・「父ちゃんは小さな箱だった」のところで、死んだとは書いていないことについて、何があったのかなどを考えるのが楽しかった 1人
	・おもしろい表現がたくさんあった 1人
	・ノリオの成長について考えたこと 1人
	△あまり楽しくなかった 4人
	・内容があまりわからなかった 1人
	・ブックレビューを書くこと 1人
	・ノリオの気持ちを考えることが楽しくなかった 1人
	・無回答 1人

②「川とノリオ」の内容はわかりましたか。	○わかった 26人 ○少しわかった 9人
	△あまりわからなかった 1人
③ストーリーマップは役に立ちましたか。	○とても役に立った 20人 ○少し役に立った 12人 ・あらすじをまとめやすかった 10人 ・ブックレビューを書くときに役立った 9人 ・ノリオの心情がわかりやすかった 9人 ・内容がわかった 7人 ・話の展開が一目見ただけでわかった 2人 ・ブックレビューを書くときに、抜き出したいところが見つかり、短い言葉でまとめることができた。 1人 ・重要な部分がわかった 1人 ・みんなの考えがわかった 1人
	△あまり役に立たなかった 4人 ・ストーリーマップを使わなくても内容がわかる 2人 ・よくわからなかった 1人 ・無回答 1人
④ブックレビューを書いた学習は楽しかったですか。	○楽しかった 29人 ○少し楽しかった 5人 ・自分で選んだ本のブックレビューを書いてよかった 15人 ・自分で選んだ本をみんなに知ってもらえた 8人 ・ブックレビューを書くことが楽しかった 4人 ・自分がいいと思うところをありのままに書けた ・ストーリーマップがあったので書きやすかった ・本屋のポップと違う書き方が楽しかった ・自分がいいと思うところを好きなように書いて、簡単なあらすじも書けた ・紹介するのは楽しかったが、長くなってしまうところを短くまとめるのは難しかった
	△あまり楽しくなかった 2人 ・好きな本が決まらなかった 1人 ・ブックレビューはいやだから 1人
⑤「川とノリオ」のブックレビューを書いたことは、好きな本のブックレビューを書くときに役立ちましたか。	○はい 24人 ○いいえ 12人

〈考察〉

本の紹介をすることや感想を伝え合うことが好きな児童たちだが、実際には、自分の考えをまとめることや、自分の言葉で表現することに対して苦手意識がある。初発の感想やあらすじをまとめる際に、視点を与えたことで、自分の言葉で表現することができた。学習前は、「読んだ本の感想

を書いたり、伝えたりすることは楽しいか。」という設問に66%の児童が楽しいと答えているのに対し、「ブックレビューを書いた学習は楽しかったか。」という設問では、94%の児童が楽しいと答えている。少数ではあるが、「自分がいいと思うところをありのままに書けた。」「簡単なあらすじが書けた。」という感想があり、本の内容を理解できたという実感がある。

この単元を指導するにあたり、「ストーリーマップ」を初めて使ったが、あらすじをまとめる時に役立ったと答えている児童は88%である。この単元でねらっていた「あらすじをおさえる」「登場人物の心情の変化をまとめる」学習をしているときに、ストーリーマップを使って学習したことを振り返る児童がいた。

〈仮説1について〉

①児童が目的意識を維持するための単元計画

○「ブックレビュー」を書くことをゴールとしたが、「川とノリオ」を読んでブックレビューを書いた後に、自分で選んだ物語のブックレビューを書く活動は、児童の意欲を高めたり、読書の幅を広げたりするために有効であった。図書館や書店にあるポップやブックレビューについて紹介し、モデル文を示したことで、どのように書くのかを想像することができた。最終的に、自分で選んだ物語で書くことを目的とすることは、読書することが好きな児童にとって楽しみな活動になった。

○自分で選んだ物語のブックレビューを書くにあたり、相手を誰にするのかを個々に考えさせた。1年生なら絵本、同じ学年なら自分が今読んでいる本といったように、選ぶ本が相手によって変わってきたが、わかりやすく伝えることや、興味をもってもらうための書き方を考えながら書くことができた。

②読み取る内容を焦点化し、わかりやすい活動を計画する。

○ブックレビューを書くにあたり、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」に視点をあてて書くようにさせたことで、読みとるべき内容を焦点化することができた。

○焦点化することで、「紹介するために何を伝えればよいかわからない」という児童が、書く内容を明確にして、ブックレビューを書くことができた。

③登場人物の心情の変化を読むための手だて

○登場人物の心情がわかる叙述がどの表現なのかを探することができない児童が多くいた。そこで、単元の途中からであったが、登場人物の心情がわかる叙述を指導者からピックアップし、児童に示すようにした。その表現からわかる心情をストーリーマップにまとめていくことで、読み取ることができた。

○似ている表現（たとえば「八月六日」と「また、八月の六日がある」）や、文の一部を隠すしかけ文（「サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れ。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れよう。」の最後の「よう」を隠す。）などを使って、その表現の仕方の違いや表現の効果について考えさせることで、登場人物のおかれている状況や心情の変化を読み取ることができた。

④思考ツール「ストーリーマップ」を使って視覚的に考えを整理する。

○「ストーリーマップ」を用いて考えを視覚化することで、あらすじや登場人物の心情の変化をとらえやすくなった。あらすじを自分の言葉でまとめるときや、ブックレビューを書く際にはストーリーマップを活用することができた。

○ストーリーマップを使うことは、視覚化されると同時に焦点化もされるので、あらすじをまとめるにあたり、あらすじをまとめることができなかった児童はポイントを押さえてまとめることができ、文章が長くなりすぎてしまう児童は端的にまとめることができた。

〈仮説2について〉

①優れた表現の効果の理解と活用

○「比喩」「体言止め」「オノマトペ」「リフレイン」「倒置法」「対句的表現」について、知っているものが少ないという実態があった。優れた表現について知ることと、その表現を「川とノリオ」の文中から探すことから始めた。その表現があることでどんな効果があるか、または、その表現を使わないとでどんな違いがあるかについて考えさせることで、優れた叙述について理解することができた。

○優れた叙述を学んだことで、ブックレビューを書くときに、それらを活用することができた。また、日記や作文、詩を書くといった表現活動に取り入れることができるようになった。

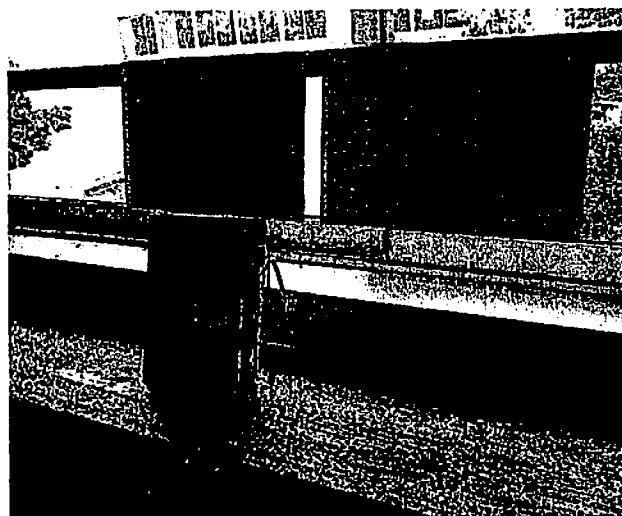
②「言葉のノート」の作成

○国語科の学習やドリルタイムに、学習用語や教材文の意味調べをし、「言葉のノート」に記録した。本文の前後関係から想像できる語句はたくさんあるが、調べて記録したり、調べた言葉を実際に使ってみたりすることで言語の獲得につなげることができた。

▲「言葉のノート」に学習用語や語句を書いていくことに楽しさを感じているものの、自主的に活用する児童と、そうでない児童との個人差が大きい。今後も授業やドリルタイムなど時間を確保して作成していく必要がある。



自分で選んだ本のブックレビューは図書室に置き、来室児童に参考にしてもらうようにした。



実践③

4 学年 物語の世界を想像して、音読したり、えんじたりしよう 『ぞろぞろ』

仮説に対する手だてと実践

仮説 1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

手だて①

単元を通して目的をもって主体的に読もうとすることのできる指導計画を立てる。

○単元のめあてに合った学習のゴールを設定する。

主たるめあて

- ・場面の様子や登場人物の性格を想像しながら、聞き手に様子がよく伝わるような音読ができるようにしたい。

児童の実態

- ・音読は好きだが、人前で音読することは好きではない児童が3分の2いる。
- ・落語を知らない児童が3分の2いる。

会話やせりふを何度も読んで、登場人物の性格がわかるような音読ができる活動は？ゴールは？

単元のゴール

好きな場面を選び、音読したり演じたりして3年生に「ぞろぞろ」のおもしろさを伝える。

仮説 2

言語を増やしたり獲得したりするための活動を工夫していけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとすることができるだろう。

手だて①

読み方、表現方法について習得したり語彙を増やしたりする活動やその設け方を検討し、計画的、継続的に行う。

○音読の継続

児童になじみの少ない落語の教材なので、前もって繰り返し音読させ、登場人物の性格を生かした表現の工夫ができることを目指した。

【4 学年 物語の世界を想像して、音読したり、えんじたりしよう 『ぞろぞろ』 成果】 (映像資料)

○音読を下級生に聞かせることを単元のゴールとして取り組んだところ、普段は国語の学習に意欲を示さない児童が継続して繰り返し練習することができた。

7 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 単元のゴールを示したことで、児童が最終目的の活動に向け進んで、また飽きずに文章を読もうとすることができた。相手意識をもたせることによっても、児童の意欲が継続できた。
- 学習の計画を掲示したことで、見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ワークシートの活用により、叙述を基に読むことが多くの児童に習慣づいてきた。
- 学校司書の協力により、単元の学習に入るときには関連図書を教室等に置くことができた。児童が手にとって読むことが容易にでき、並行読書が行いやすくなった。単元の学習内容に関連する本を進んで読む児童が増えた。
- 読むことを通して学んだ表現方法を、単元のゴールや次の学習で用いることができる児童が増えた。

(2) 今後の課題

- ▲児童にとって魅力のある単元のゴールを設定するために、児童の実態をしっかりと把握したり、単元の目標にふさわしい活動を工夫したり吟味したりする必要がある。
- ▲どのような姿になったら力がついたと判断したらよいかという規準を「めざす児童の姿」としたが、児童の変容を把握する方法についての検討が必要であった。
- ▲語彙に関しては個人差が大きいので、国語科の学習で得たことを生かし、継続することに加え、各教科でわからない言葉を調べる、文作りを行う、読書活動を増やすと共に、様々な分野の本を読むことによって表現方法を知るための手だてを考える必要がある。また、指導者がいかに言葉に対して敏感にいられるかという、指導者の言葉に対する感覚も大切である。

資料編

資料編

指導案，ワークシート，並行読書のために教室に置いた本

ページ

第2学年 1年生に『さけクイズ大会』をひらこう
教材名『さけが大きくなるまで』

資料編 1

第6学年 感想を伝え合おう
教材名『川とノリオ』

資料編 13

第4学年 物語の世界を想像して，音読したりえんじたり
しよう
教材名『ぞろぞろ』

資料編 28

仮説2 言語を増やしたり獲得したりする活動

資料編 34

1 単元名

1年生に『さけクイズ大会』をひらこう 『さけが大きくなるまで』

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、国語学習指導要領の以下を受けて設定した。

C 読むこと

(1) イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) イ(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

児童は、第2学年の1学期に、「すみれとあり」で順序に気をつけて文章を読む学習を行い、「まず」「次に」などの順序を表す言葉の学習を行ってきた。

本単元では、「さけが大きくなるまで」というさけの成長過程を解説した文章を読み、さけの成長について、時「秋になるころ」「冬の間」や場所「北の海」「水のきれいな川上」などの言葉をたよりに、さけの大きさや様子の移り変わりの読み取りができることを目指している。また、時の「秋になるころ」「冬の間」や大きさの「70センチメートルほど」「3メートルぐらい」などの微調整やぴったりでない言葉の意味も身につけさせられる教材である。大きさについては、視覚的にわかるようにするため、生まれたばかりのさけの大きさをワークシートに書いたり、さけが上る3メートルぐらいの滝を教室に作ったりするなど、さけの様子の変化や大変さを考えさせていく。本単元は、さけの成長を読み取らせるため、「時」「場所」「大きさや様子」の3つのキーワードを整理してまとめることや、大人のさけが卵を産み、育っていく様子をワークシートに書いて積み重ねることによって、命がつながっていくことを知らせ、命の尊さを学習できる教材となっている。

この学習をした後に、「さけが大きくなるまで」を学習していない1年生に向けさけクイズ大会を行うことを目標とする。『さけクイズ大会』は、1年生に本文の内容を、写真を提示しながら説明した後、クイズを出題する。クイズは、本文で読み取ったキーワードから答えを決め、問題を作成し、本文の一部と写真を解説とする。また、クイズを作成する際には、回答者（1年生）に対する言葉遣いや、問題文の文言を考えることで、相手を考えた言葉のつかい方を学習できることを目指している。また、問題と答え・解説が本文と同じ段落であることや問題は1年生に向けたものになっていることを友達と話し合いながら考えることによって、読み取りの力を高めることができる学習としていく。

この学習をするにあたり、学校司書の協力を得て、生き物の生活について書いた本を揃え、他の生物についてもさけと違う成長をすることを学ばせる。また、キーワードや「秋になるころ」や「〇〇センチメートルぐらい」のようなぴったりでない言葉についても着目しながら並行読書をさせていく。

(2) 児童の実態

本学級の児童（男子14名、女子14名、計28名）は、非常に活発で学習に対して意欲的である児童が多い。学習のきまりや集中力の持続はまだ十分ではないが、課題に対して前向きに取り組むことができる児童が多い。本単元を実施するにあたり、下記のアンケートを実施した。

実施日 平成28年11月2日（実施人数28人）

1 国語の学習は好きですか。

- ・好き…6人
- ・どちらかというとき嫌い…6人
- ・どちらかというとき好き…12人
- ・嫌い…4人

好きな理由（複数回答）

- ・新しい漢字を覚えること（15人）
- ・文を書くこと（13人）
- ・発表すること（12人）
- ・新しい言葉を覚えること（9人）
- ・発表を聞くこと（15人）
- ・音読（13人）
- ・文を読むこと（10人）

嫌いな理由（複数回答）

- ・発表すること（12人）
- ・文を書くこと（11人）
- ・新しい言葉を覚えること（2人）
- ・文を読むこと（11人）
- ・音読（6人）
- ・発表を聞くこと（2人）

2 読書は好きですか。

- ・好き…23人
- ・どちらかというとき嫌い…1人
- ・どちらかというとき好き…3人
- ・嫌い…1人

3 どんな種類の本が好きですか。（複数回答）

- ・物語…16人
- ・歴史の本…11人
- ・スポーツの本…9人
- ・芸術の本…7人
- ・遊びの本…7人
- ・絵本…6人
- ・植物の本…6人
- ・星の本…5人
- ・動物の本…4人
- ・外国の本…4人
- ・機械の本…2人
- ・漫画…1人

4 魚の「さけ」を知っていますか。

- ・知っている…17人
- ・知らない…11人

アンケートの結果を受けて、国語の学習を「好き」「どちらかというとき好き」と答えている児童は多いが、「嫌い」と答えている児童も4人いる。理由としては、「文を読むこと」「文を書くこと」「発表すること」は好きな児童もいるが、嫌いな児童も同数程度いることがわかる。また、「新しい言葉を覚えること」「新しい漢字を覚えること」「発表を聞くこと」は嫌いな児童の数が少ないことがわかる。このことから、国語が嫌いな理由は、「文を読むこと」「文を書くこと」「発表すること」を苦手としているということがわかる。

「新しい言葉を覚えること」や「新しい漢字を覚えること」が好きな児童が多く、新しい単元である「さけが大きくなるまで」の学習に意欲的に取り組む姿が想像できる。しかし、書くことや発表することに苦手意識のある児童も多くいるため、それらの活動が意欲的に取り組めるように支援が必要である。

読書は好きな児童がほとんどであるが、動物の本が好きな児童は少ないことがわかるため、教室に生き物の本を置き、意図的に触れさせていきたい。「さけ」については、魚としての「さけ」を知っている児童は6割程度にとどまっている。

児童は、クイズをつくることはとても好きであり、生活科の町探検の発表会や国語科のグループ発表会の学習ではほとんどの班が発表にクイズを取り入れていた。しかし、発表がクイズだけになってしまう班も多かったため、みんなが楽しめるクイズづくりとともに、会の進行の工夫も必要であると考えてる。

(3) 指導観

仮説 1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

手だて

① 単元のゴールを明らかにする

第1時の授業で単元の計画を掲示し、全体の流れをわかるようにしておく。学習の見通しをもたせることで、毎時間の内容についての不安感を取り除きたいと思う。また、目的をもって読み進める活動を続けるために、1年生に『さけクイズ大会』を開くことを学習の最終目標とする。相手や目的を明確にすることによって、学習意欲の向上をねらいたい。

② 読むことや読むことを通して思いや考えを表現するものを積み重ねていくことができるワークシートやノートづくりをする。

段落ごとにキーワードにラインを引かせ、ワークシートに記入し、内容を振り返れるようする。また、段落の最後にはさけになりきった気持ちを書き、キーワードについて確認させることで読みが深まると考えられる。

文章に出てくる「70センチメートルほど」や「3メートルぐらい」などの大きさについては、言葉だけではイメージがつきにくい児童に対して、実際に用意することによってどれほどの長さなのか視覚的にわかるように同じ長さのテープなどを教師が準備する。また、生まれたばかりのさけの大きさ「3センチメートルぐらい」などはワークシートに書かせイメージが膨らめば、より読みが深まると考えられる。

『さけクイズ大会』では、クイズを出す前に1年生に写真を使い、本文の内容を説明する。説明の中から答えられるクイズを作ることで、より読みが深まると考える。

③ 単元のゴールのモデルを示す。

クイズの作り方は、教師が示す問題で確認させ、「キーワードが答えになること」「解説の書き方」「写真を使った説明から答えがわかること」「1年生に向けた文言になっていること」を考えさせることで、表現力が高まるだろう。また、答えは段落ごとのワークシートから選ぶこと、解説は本文の答えの書いてある段落の書き抜きと写真とすることで読み取ったことを考えることにつながると考えた。

仮説 2

言語を増やしたり獲得したりするための活動を工夫していけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとすることができるだろう。

手だて

① 難語句について理解する機会を設ける。

本文の時を表す言葉の「秋になるころ」「冬の間」や大きさを表す言葉の「70センチメートルほど」「3メートルぐらい」などの微調整やぴったりでない言葉も「秋」と「秋になるころ」や「70センチメートル」と「70センチメートルほど」の意味を全体で話し合いながら、違いを確認することで、しっかりと把握することができると思う。

② 語彙や表現の仕方を習得する活動を計画的、継続的に行う。

児童の実態より、読書好きな児童が多いが、「さけが大きくなるまで」のような生き物の生活について書いた本をあまり読んでいないため、学校司書の協力を得て、生き物の生活について書いてある本を意図的に揃える。そして、生き物の本に計画的に触れさせることで、他の生き物の生活について書かれた文章にもキーワードとなる言葉があることを知り、語彙や表現方法の幅が広がるだろう。

クイズを作成するには、クイズのつくり方を提示し、目的や回答者に応じた問題を作成すること・答えから問題を作ることなどがわかるようにする。また、本時のワークシートは答えから問題を作成できるようにし、その横に解説をつけ、本文と合っているかを確認できるようにする。作ったクイズは、友達と出題し合いながら「キーワード」と「解説」が本文と同じ段落にあるか確認させるとともに、自分のクイズとの違いにも着目させる。また、回答者が1年生であるため、問題と解説の文言や写真を使った説明から答えがわかることを考えさせると、より相手のことを考えた表現方法が身につくと考えた。

3 単元の目標

- さけの成長の過程に興味をもち、文章を読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- 季節や場所、さけの様子など、情報を時系列で捉える手がかりになる言葉を見つけながら文章を読むことができる。 (読むこと)
- 順序や場所を表す言葉を書き抜きながら読むことができる。 (読むこと)
- 成長の過程の時々でのさけの行動や成長の様子に注意しながら、読んだり話したりすることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画 (11時間扱い)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準 (観点) 【方法】 <仮説>
見出す	2	・生き物クイズの例題を示し、さけの成長についてのクイズをするという学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。 ・単元名やリード文を読んで、順序に気をつけながら読むことを知る。	並行読書 ・クイズをつくることに興味をもち、学習の見通しをもとうとしている。 (関心・意欲・態度) 【行動観察】 <仮説1> ・並行読書を通して、「時」「場所」「様子や大きさ」を表す様々な表現方法を習得している。(言語) 【ワークシート・行動観察】 <仮説2>
		・問題提示文 (問いかけの文) を見つけ、何について読み進めていくか知る。	

調べる深める	6	・ 2 枚目, 3 枚目の写真について説明するために, 3 つのキーワードをまとめる。 ・ さけの気持ちになり, 吹き出しに書いたり動作化したりして表現する。	並行読書	・ さけの成長の過程に興味をもち, 文章を読もうとしている。(関心・意欲・態度) 【行動観察】<仮説 1> ・ 順序や場所を表す言葉を見つけながら読んでいる。(読むこと) 【ワークシート・発表】<仮説 1>
		・ 4 枚目の写真について説明するために, 3 つのキーワードをまとめる。 ・ さけの気持ちになり, 吹き出しに書いたり, 動作化したりして表現する。		・ 順序や場所を表す言葉を書き抜きながら読んでいる。(読むこと) 【ワークシート・発表】<仮説 1> ・ 成長の過程の時々での行動や成長の様子が分かる言葉を探している。(言語)【ワークシート・発表】<仮説 1>
		・ 5, 6 枚目の写真について説明するために, 3 つのキーワードをまとめる。 ・ さけの気持ちになり, 吹き出しに書いたり, 動作化したりして表現する。		・ さけの成長の過程に興味をもち, 文章を読もうとしている。(関心・意欲・態度) 【行動観察】<仮説 1> ・ さけが「いつ, どこで, どのように」育っていくかを整理しながら読んでいる。(読むこと) 【ワークシート・発表】<仮説 1>
		・ 海でのさけの生活の様子が分かるように, 3 つのキーワードをまとめる。 ・ さけの気持ちになり, 吹き出しに書いたり, 動作化したりして表現する。		・ さけの成長について時系列でとらえる言葉を探しながら読んでいる。(読むこと) 【ワークシート】<仮説 1>
		・ 教科書の 6 枚の写真を使ってさけの大きくなる様子をさけになったつもりで説明する。(2 時間扱い)		・ 時や様子の変化を表す言葉を用いながら, 写真を使ってさけの成長の様子を説明している。(読むこと) 【発表】<仮説 1>

まとめあげる	3 本時 (9/11)	・自分が選んだワークシートの3つのキーワードを基にクイズを作成する。 ・クイズの解説を作成する。 ・できたクイズを友達と見合う。	並 行 読 書	・クイズ作りに興味をもち、進んで文章を読もうとしている。(関心・意欲・態度) 【行動観察】(言語) <仮説1> ・時や様子の変化を表す言葉を用いながら、クイズを作成している。(読むこと) 【ワークシート】(言語) <仮説1>
		・1年生に向けたクイズかどうか話し合う。 ・クイズの問題と答え・解説が本文の同じ段落であることや問題は1年生に向けたものになっていることを話し合う。		・時や様子の変化を表す言葉を用いながら、解説を作成している。(読むこと) 【ワークシート】<仮説1> ・成長の過程の時々での行動や成長の様子に注意しながら話している。(こと)【発表】<仮説1>
		・1年生にクイズ大会を行う。		・さけの成長の過程を説明する際、季節や場所、さけの様子などの言葉を適切に使って話している。(読むこと)【発表】<仮説1> ・できたクイズを1年に積極的に出そうとしている。(関心・意欲・態度)【行動観察】<仮説1>

5 本時の学習 (9/11)

(1) 目標

- つくったクイズを積極的に発表している。(関心・意欲・態度)
- 時や様子の変化を表す言葉を用いながら、クイズや解説を作成することができる。(読むこと)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 <仮説とのかかわり>	資料
5	1 前時までの学習について振り返り、本文のキーワードとなる言葉について	・前時までの掲示物を使って本文の流れを確認する。	本文のキーワード

	て確かめる。		ードの 掲示物
2	2 めあてを確認し、本時の学習の流れを把握する。		
	1年生に向けてキーワードからクイズとかいせつを作ろう。		
8	☆『さけクイズ大会』の問題はどんなことがポイントでしょう。(主発問) 3 クイズのポイントを教師が示す問題から確認する。 ・キーワードが答えとなること ・解説の書き方 ・クイズを出す前に行う写真を使った説明から答えがわかること。 ・1年生に向けた文言になっていることをポイントとする。	・「キーワードが答えとなること」「解説の書き方」「クイズを出す前に行う写真を使った説明から、答えがわかること」「1年生に向けた文言になっていること」の以上4点をポイントとし、教師が示し、ポイントを押さえられるように助言する。	教師が つくっ たクイ ズの拡 大 ワーク シート
13	4 個人でクイズを作る。 ・キーワードから答えを決め、ワークシートに記入する。 ・教科書の本文を書き抜き、解説を作る。	・作り終わった児童にはポイントを確認した後、次のクイズを作るように指示する。 ・なかなか書き始められない児童には、ワークシートから答えを選ぶように助言する。 ○時や様子の変化を表す言葉を用いながら、クイズ・解説を作成しているか。 【ワークシート】＜仮説1＞	
7	5 友達と作ったクイズを出し合い、キーワードと解説が同じ段落であることを確かめ合う。 ・隣・前後・他の友達の順で互いにクイズを出し合う。	・発表を苦手とする児童も発表ができるように隣・前後・他の友達の順で互いにクイズを出し合わせる。 ・自分と違うクイズに注目するよう助言する。 ・キーワードと解説の段落が同じであることを確認するよう助言する。 ○できたクイズについて積極的に発表しようとしている。【観察】 ＜仮説2＞	
7	6 友達とクイズを出し合っの感想を発表する。 ・友達のクイズのよかった点を全体で発表する。	・キーワードについて良かった児童を発表させる。 ・1年生に向けてのクイズとして良かった児童を発表させる。	

3	7 次時の予告をする。 ・次時の見通しをもつ。	・次時は作ったクイズが1年生に向けて適切な内容かを話し合うことを伝える。	
---	----------------------------	--------------------------------------	--

(3) 板書計画

キーワード かいせつ 一年生にむけて	かいせつ さけは北の海にすむ大きな魚です。七十センチメートルほどもある大きな魚です。	答え 七十センチメートルほど	問い 大人のさけの大きさは何センチメートルほどですか。	一年生にむけてキーワードからクイズとかいせつを作ろう。	さけが大きくなるまで 三つのキーワード 一、時(きせつ、日にち) 二、場しよ(どこで) 三、大きさやようす (さけの大きさ、さけは何をしているのか)
---	--	----------------------------------	---	--	--

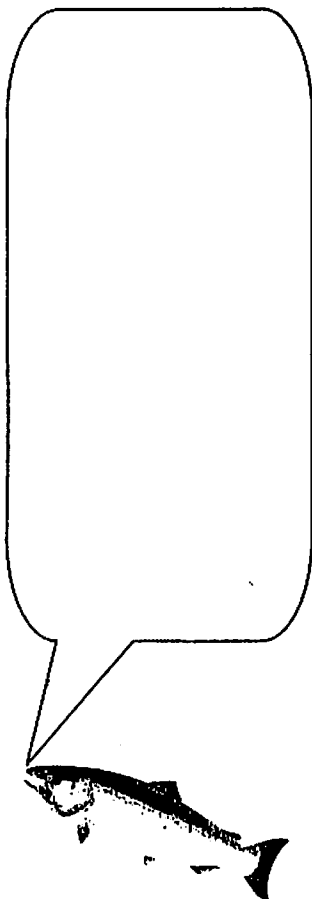
学

さけが大きくなるまで①

名前 (

)

時	場しよ	大きさ・ようす



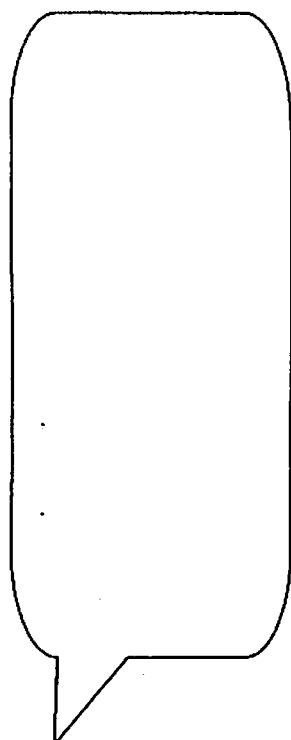
学

さけが大きくなるまで②

名前 (

)

時	場しよ	大きさ・ようす



学

さが大きくなるまで③

名前

時

場しよ

大きさ・ようす

学

さが大きくなるまで④

名前

時

場しよ

大きさ・ようす

名前()

() まい目のしやしん

時	
場しよ	
大きさは ようす	

しやしんのせつ明文

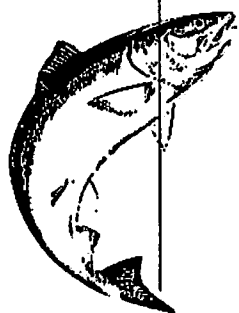
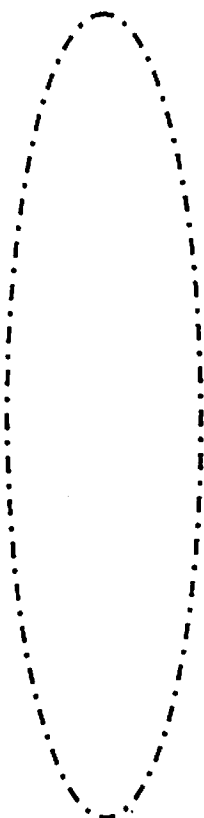
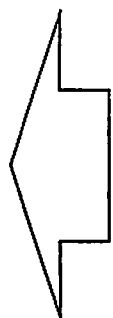
クイズづくりシート

名前()

答え

とい

かいせつ



○教室に置いた本

著者名等	書 名	出版社
佐藤 有恒	アカトンボの一生	あかね書房
佐々木 崑	カイコの一生	フレーベル館
種村ひろし	カエルのたんじょう	あかね書房
得田 之久	かぶとむし	福音館書店
得田 之久	かまきり	福音館書店
増田 辰樹	カメのくらし	あかね書房
おおば比呂司	サケの旅 フレーベル館の かんさつシリーズ	フレーベル館
桜井 淳史	サケのたんじょう	あかね書房
佐藤 有恒	セミの一生	あかね書房
得田 之久	ちょう	福音館書店
得田 之久	とんぼ	福音館書店
得田 之久	はち	福音館書店
佐々木 崑	ホタルの一生 ポプラ社の実験・観察シリーズ 3 メダカ	フレーベル館 ポプラ社
渡辺 可久	川のさかな	岩崎書店
渡辺 可久	海のさかな	岩崎書店
さの おさむ	サケの一生 シリーズ海 1 4	らくだ出版
おおば 比呂司	サケの旅	フレーベル館
桜井 淳史	サケ 川はぼくらのふるさとだ	平凡社
小田 英智	サケ観察事典	偕成社
越智 典子	ピリカ, おかあさんへの旅	福音館書店

1 単元名

感想を伝え合おう 『川とノリオ』

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、国語科学習指導要領第5学年及び第6学年の以下の内容を受けて設定した。

C 読むこと

(1) ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。

エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) イ (キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

(ク) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

本単元は、教材文である『川とノリオ』のあらすじをとらえたり、表現の効果などから味わって登場人物の心情の変化を考えたりして、感想を伝え合うことをねらっている。さらに、読書を通して考えを広げたり、読書の幅を広げたりする。

本単元で学習する『川とノリオ』は、変わらず流れ続ける「川」と、時代に翻弄され変わっていく「ノリオ」とその周囲の人々の対比構造を軸に展開されており、こうした象徴的な表現がこの教材の特徴である。また、優れた叙述によって登場人物の心情の変化の場面を思考させていくことができる教材である。

児童は6年生になってからこれまでに、随筆を読み、そのあとに実際に簡単な随筆を書く活動と、情報文を読み、その情報文の推薦文を書く活動を経験している。書いた随筆や推薦文は、友だち同士で読み合うという交流活動をし、もう一度自分の作品について考える経験もある。

教材の特徴と、児童のこれまでの経験から、作品の紹介文を書く活動を通して、物語のあらすじをとらえ、優れた叙述から登場人物の心情の変化を読む力を身につけさせたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童(男子17名、女子19名、計36名)は、課題にまじめに取り組むことができ、できた喜びを味わうことができる。しかし、難しい問題に直面すると、考えるのをやめてしまったり、誰かが解決してくれるのを待っていたりすることがある。また、自分の考えを伝えることに苦手意識があり、進んで考えを伝えようとする児童は少ないが、指名されたときには伝えることができる。

本単元を指導するにあたり、次のようなアンケートを実施した。

実施日 平成29年5月22日(実施人数36名)

1 物語の学習で楽しい・わかると思うのはどんなことですか。(自由記述)

○物語自体を読むことが好き(8人)

○物語の続きが楽しみ(4人)

○好きな物語・面白い物語のとき(4人)

○音読をするとき(3人)

○主人公の気持ちになれる(2人)

○作者の考え(2人)

○読み聞かせ(2人)

○物語の続きを想像するとき

○わかりやすい物語

○知っている内容のとき

○読んだ後、どう思ったのか説明するとき

○内容がわかると楽しい

○登場人物と気持ちが同じになるとき

○自分のことと比べるとき

- 面白くて読んでいるといつの間にか時間が過ぎていってしまう
- クライマックスになったとき。文字もクライマックスになっているようにみえる
- 最初から最後までいろいろなことが起きている
- いろいろな種類の物語があるので楽しい
- グループでの学習

2 物語の学習で楽しくない・わからないと思うのはどんなことですか。(自由記述)

- 難しい言葉 (7人)
- 内容がよくわからない、難しいとき (7人)
- 難しい表現 (4人)
- 発表すること (3人)
- 感想を書くこと (3人)
- つまらない、興味がない物語 (3人)
- 難しい漢字 (2人)
- 長い物語 (2人)
- 話の展開
- 字が細かい時
- 登場人物が複雑なとき
- 作者の気持ちを考えること
- 面白くないときはない (6人)

3 読んだ本の感想を書いたり、伝えたりすることは楽しいですか。

- ・楽しい . . . 4人
- ・あまり楽しくない . . . 12人
- ・少し楽しい . . . 15名
- ・楽しくない . . . 4人

理由

- 友だちに勧めるのが好きだから (4人)
- 本のいいところを言ったり、書いたりすることが好き (3人)
- 感想を言う時、相手も言ってくれて共感できる (2人)
- 友だちの感想を聞いて自分と比べることは楽しい (2人)
- 感想を書くことが好き (2人)
- 自分の気持ちを書けるから好き
- 友だちに感想を言うのは楽しいけれど、自分の好きなものばかり選んでしまって、その時は、自分の趣味をあまり知られたくないと思う
- みんなの好きな本がわかり、その本を貸してもらったり、買ったりできる
- 感想を書いているとき思い出せることが楽しい
- 作文のように長く書くことはできないが、思ったことをそのまま書くのは好き
- 感想を伝え合うと、新しい発見ができる
- 感想を伝えることは得意ではない (4人)
- 文にするのは難しい (3人)
- 発表で言うのは苦手 (2人)
- うまく伝えられない (2人)
- 何を書くのかわからない (2名)
- 心に残る場面があまりない
- 読むのも書くのも好きではない
- 説明力がなくていつも理解してもらえない
- 自分は面白くても、相手はあまり面白くないかもしれないから。
- 本は読むだけでいいから。

4 戦争に関する本などを読んだことがありますか。

- はい . . . 30人
- いいえ . . . 6人
- ・はだしのゲン
- ・一つの花
- ・ちいちゃんのかげおくり
- ・川とノリオ
- ・ほたるの墓
- ・杉原千畝
- ・ヒロシマのピカ
- ・千羽鶴
- ・ユダヤ人、人種差別を経験したことがある人の本
- ・題名はわからないが、主人公のおじいさんが戦争で起こったできごとを話して、最後に自分はどう思っているかを考える話

5 戦争について誰かから聞いたことがありますか

- はい . . . 15名
- いいえ . . . 21名

- ・どんな風に逃げるのかを聞いた
- ・飛行機で突っ込んだ話を聞いた
- ・その時代は大変だったけど、今は幸せだと思った
- ・暮らしについて聞いて大変だと思った
- ・原爆や放射線のこと、たくさんの人が亡くなったことを聞いた
- ・資料館で見た
- ・おばあちゃんが逃げ回ったことや、ご飯が少ししかなかったことを聞いた
- ・お母さんから聞いて、なぜ罪をおかしていないのに戦争に行かなければならないのだろうと思った
- ・ひいおばあさんから、いたるところが燃えていてガラスの破片でけがをした話を聞いた。もうこんなことが起こってほしくないと思った
- ・おじいちゃんが小学生のころ、B29 が飛んでいた話を聞いた
- ・先生のお父さんとおじいちゃんの話聞いて、とても悲しくなった

アンケート結果から、物語の楽しみ方が児童それぞれにあることがわかる。2 番目の設問の「物語の学習で楽しくない・わからないと思うとき」に着目すると、「難しい言葉」や「難しい表現」があるとき、「内容がよくわからないとき」と答えていることから、語彙力や表現の効果の理解が乏しいことが考えられる。読んだ本の感想を伝え合うことは、44%の児童が楽しくないと感じている。「感想を伝えることが難しい」「うまく伝えられない」など、伝えるための表現の仕方がよくわからない児童が36%いる。2 番目の設問と関連付けてみると、内容を理解できないことが原因となっており、感想を伝えることが楽しくないということも考えられる。

5 月に実施した随筆の読むことに関する評価テストでは、47%の児童が、内容理解ができていないものの、設問に対して正しい表現で答えることができなかった。普段の授業でも、発問に対して適切に答えることができない児童や、言いたいことがあっても言葉が整わずにうまく話すことができない児童が半分以上いる。随筆を書く学習では、日本語を学習中の児童を除いて、全員が自分なりの考えを簡単な随筆で表すことができた。随筆の学習後のアンケートでは、自分の考えを自由に書けることと、友だちの随筆を読んだこと、読んだ感想をもらえたことが楽しかったと答えている児童は72%である。28%の児童が楽しくなかったと答えており、その理由は「自分の考えを表現できない」「書く内容がない」であった。表現の仕方がうまくできないことが原因であることがわかる。

(3) 指導観

仮説 1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

児童の実態から、本単元を指導するにあたり、次のような手立てを実践していく。

① 『川とノリオ』の紹介文を書くことをゴールとする単元計画

意欲を持ち、さらに目的を明確にして読み深めるために、『川とノリオ』の紹介文を書く活動をゴールとする。ゴールに行き着くまで、どのような活動をしていくのかを示し、毎時間の活動内容を明確にすることで、学習の見通しを持たせる。

『川とノリオ』は、優れた叙述がたくさんあり、その効果を考えることで、登場人物の心情の変化を深く読むことにつながると考える。そこで、第一次、第二次、第三次で構成する。

第一次では、モデル文を提示し、紹介文を書いて図書室に置くという具体的な見通しを持たせることで、関心・意欲を高める。また、紹介文のモデルを提示することは、感想を伝え合うことに苦手意識をもっている児童が、どのような活動なのかをイメージしやすくなると考える。

第二次では、登場人物の行動や優れた叙述をもとに、あらすじや登場人物の心情の変化を捉えることができるようにする。その際、しかけ文（本文とは少し異なった文）を提示し、優れた叙述の効果を考えることができるようにする。読み取ったことをもとに、『川とノリオ』の紹介文を書き、友だちと読み合い、相互評価をする。紹介文を書く際には、「あらすじ」「優れた叙述」「登

場人物の心情の変化」について紹介することとする。焦点化することで、紹介する側も紹介される側もわかりやすいものとなるようにし、さらに戦争に対する偏った見方にならないように留意したい。

この単元で書く「紹介文」は「ブックレビュー」だと伝え、長く書くことは強要しない。また、「ブックレビュー」は本の評価になるが、そこにはこだわらず、『川とノリオ』をたくさんの人に手に取ってもらうためにはどのようにすればよいか」を考えさせて書かせたい。

第三次では、物語を読み、紹介文を書いた経験を生かして、『川とノリオ』以外の物語の紹介文を書き、読書活動が広がるようにする。

② 思考ツールを活用し、視覚的に考えを整理する。

思考ツールを用いて視覚化し、登場人物の心情の変化や自分の考えを明確にし、主体的に表現できるようにしたい。思考ツールを用いる際、ワークシートが必要となるが、ノートに自分の考えをまとめる大切さを学ばせるため、ノートと併用して学習を進めていく。

③ 興味・関心を広げる読書活動

時間外ではあるが、戦争に関する本を教室に置いたり、読み聞かせを実施したりし、興味・関心を高める。戦争に関する本のみでなく、優れた表現が書かれている本も準備しておき、教師から紹介するようにする。

仮説2

言語を増やしたり獲得したりするための活動の工夫をしていけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとすることができるだろう。

実態にあるように、50%の児童が「難しい言葉」「難しい表現」があると、物語の学習はわかりにくいと感じている。そこで、次のような手立てを実践していく。

① 優れた表現の効果を理解し、活用する活動

『川とノリオ』は、「優れた叙述」が多くあり、その表現の効果から登場人物の心情の変化を読むことができるが、「優れた叙述」の効果について理解することが難しい。「比喩」「体言止め」「オノマトペ」「リフレイン」「倒置法」「対句的表現」など、とても多くある。『川とノリオ』に書かれている表現について確認するだけでなく、ドリルタイムに短文作りを取り入れたり、日記にそれらの表現方法を取り入れる課題を出したりして、実際に使うことで言語の獲得をさせたい。

② 話型や紹介文の形式の提示

自分の考えたことを整った文章で表すことができるようにするために、友だちとの意見交流で話型を提示して伝えることに慣れさせたり、紹介文の形式・パターンについて示したりする。

本学級には、第5学年9月より、中国からの転入生がいる。現在、日本語の学習中であり、大体的内容を聞くことはできるが、話したり、書いたりすることは難しいようである。しかし、普段の授業での教師の発問や児童の発言、学校生活中の会話から日本語を学んでいるこの児童に対し、全く違う課題を与えることは、望ましくないと考える。「川とノリオ」を読む活動は同じように進めていくが、紹介文を書く活動では、印象的な場面を選ばせ、書き写すようにさせる。また、感じたことを中国語で表現してもよいことを伝え、保護者の協力を得て、日本語での訳文をほかの児童にも伝えることができるようにする。

3 単元の目標

○優れた表現を味わいながら、人物の心情の変化を読み、紹介文を書こうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○優れた表現に気づき、その効果を考えながら文章を朗読している。(読むこと)

○優れた表現に現れた登場人物の心情の変化を想像しながら読んでいく。(読むこと)

○優れた表現について理解し、その効果をとらえている。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画（10時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（観点）【方法】〈仮説〉
見出す	2	○教材文を読み、初発の感想を書く。 ・時・場・人物に着目 ○モデル文を読み、単元の見通しをもつ。 ブックレビューを書いて、物語の紹介をしよう。	・教材文に興味をもち、初発の感想を書こうとしている。（関心・意欲・態度）【ノート・発言】 ・モデル文を読み、学習の見通しをもとうとしている。（関心・意欲・態度）【行動観察】〈仮説1〉 ・並行読書と短文作りを通して、読書への興味を広げたり、表現の効果を習得したりしている。（言語）【行動観察・ノート】〈仮説2〉
調べる深める	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、登場人物の行動について考え、『川とノリオ』のあらすじを捉える。	・登場人物の行動から、あらすじをとらえている。（読むこと）【発言・ノート】
	3 本時 (6/10)	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、優れた叙述をもとに、登場人物のおかれた状況と心情の変化について考える。	・優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえている。（読むこと）【発言・ノート・教科書へのサイドライン】〈仮説1〉
	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」を関連付けて考える。	・「ブックレビュー」を書くために、これまでに学習したことから材料を探している。（読むこと）【発言・ノート】
	2	○『川とノリオ』の「ブックレビュー」を書き、友だち同士で交流し、相互評価をする。	・「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」をもとに、『川とノリオ』のブックレビューを書いている。（読むこと）【ブックレビュー】〈仮説1〉〈仮説2〉 ・友だちと「ブックレビュー」を読み合い、良いところを認め合い、意見交流をしている。（読むこと）【交流カード・発言】〈仮説1〉
まとめあげる	1	○自分で選んだ物語の「ブックレビュー」を書き、本とともに図書室に置く。	・選んだ物語を読み、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」などをもとに「ブックレビュー」を書いている。（読むこと）【ブックレビュー】〈仮説1〉

5 本時の指導（6／10）

（1）本時の目標

○優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえることができる。（読むこと）

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 (仮説との関わり)	資料
5	1 前時までに学習した内容を確認し、本時の学習のめあてをつかむ。	・前時までの学習を振り返り、めあてを確認することで、本時の学習の流れを意識させる。	学習計画の掲示物
	ノリオの心の変化を考えよう。		
20 (6)	2 優れた叙述と登場人物の心情の変化について考える。 ・「八月六日」・「また八月六日が来る」の表現の違いについて考える。 〈予想される児童の反応〉 ・戦争が終わった後の八月六日。 ・母ちゃんがいらない八月六日。 ・ノリオは成長している。 ・「幾たびめかのあの日」	・思考ツールを用いて視覚化することで、「ノリオ」の心情を考えながら読むことができるようにする。 ・同じ「八月六日」でも、表現の仕方が変わることによって、「ノリオ」がどう変わったのかを考えさせる。	ワークシート
(6)	・「ノリオは、青いガラスのかけらを、ぼんと川の水の中に投げてやった。すぐにまぶしい日の光が、ノリオの世界に返ってきて、ノリオは仕事を思い出す。」について、ノリオの行動と「ノリオ」のおかれている状況について考える。 〈予想される児童の反応〉 ・青いガラスを川に投げて、さびしさを忘れたい。 ・考え事をしていたノリオが現実の世界に返ってきた。 ・悲しんでばかりいられないと思って仕事をする。	・川の中にガラスのかけらを投げることで、日の光がノリオの世界に返ってくること、仕事を思い出すことの3つに着目させて、「ノリオ」の変化に気付くようにさせる。	
(8)	・「ノリオは、またかまを使いだす。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れ。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れよう。」の、リフレインの効果、最後だけ「よう」が付いている効果と、またかまを使いだしたのはなぜか、について考えさせ、ノリオの心情を考える。 ☆「またかまを使いだした」のはなぜでしょう。「母ちゃん帰れよう」の「よう」がなくてもノリオの気持ちが伝わってきませんか。	・「母ちゃん帰れよう」の最後の「よう」を隠したしかけ文を提示し、その違いに気付かせる。 ・同じ文でも、繰り返されていることに着目し、その効果を考えさせることで、「ノリオ」の「母ちゃんに帰ってきてほしい」という心の叫びに気付かせる。 ・なぜ、またかまを使いだしたのかを考え、心情の変化について考えさせる。 ・リフレインと「よう」の効果により、ノリオの気持ちが高ぶっていることがわかることを確認する。	掲示物

		〈予想される児童の反応〉 ・子どもを連れだ女の人を見て、母ちゃんを思い出し、そのさびしさを忘れたくて、またかまを思い出した。 ・母ちゃんに帰ってきてほしいという強い思いがリフレインと「よう」に込められている。	
15	3 「ノリオ」の心情の変化をノートにまとめ、ペアで意見交流をする。 ☆成長したノリオは、どんな気持ちでしたか。そして、どのように変化したのでしょうか。 書き出しの例文 「成長したノリオは、母ちゃんがいなさびしさを忘れようと仕事をしてた。〜〜」 〈予想される児童の反応〉 ・母ちゃんがいなさびしさを忘れたと思っていたノリオは、子どもを連れだ女の人を見て、母ちゃんのことを思い出してしまった。母ちゃんはいないけれど、帰ってきてほしい。 ・母ちゃんがいなくてもがんばっていたノリオが、やっぱり母ちゃんがいないとさびしくて帰ってきてほしいと強く思っている。	・本時の学習で学んだ表現の効果からわかったことを確認し、心情の変化をまとめることができるようにする。 ・思考ツールを参考にしてみよう助言する。 ・自分の言葉でまとめることができない児童のために、書き出しの例文を与え、続きを書くことで、心情の変化についてまとめることができるようにする。 ○優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえている。(読むこと／ノート)〈仮説1〉 ・ペアで意見交流をし、自分と友だちの共通点や違いなどを視点に比べ、お互いの良さに気付かせる。 ・ペアでの意見交流では、話型を使うことで、表現することが苦手な児童でも友達に伝えることができるようにする。	書き出し文のヒントシート (必要な児童のみ)
5	4 本時の学習のめあてから、目標が達成できたかどうかを自己評価し、次時の見通しをもつ。	・優れた叙述から登場人物の心情の変化を読むことができたことを称賛し、次時への意欲を高める。	

(3) 板書計画

川とノリオ

いぬいとみこ

④ ノリオの気持ちの変化を考えよう

「八月六日」

「また八月六日が来る」のちがひ。

- ・ 戦争が終わった後の八月六日。
- ・ 母ちゃんがない八月六日。
- ・ ノリオは成長している。
- ・ 「幾たびめかのあの日」

「ノリオは、青いガラスのかけらを、ほんと川の水の中に投げてやった。すぐにまぶしい日の光が、ノリオの世界に返ってきて、ノリオは仕事を思い出す。」

- ・ 青いガラスを川に投げて、さびしさを忘れたい。
- ・ 考え事をしていたノリオが現実の世界に返ってきた。

・ 悲しんでばかりられないと思って仕事をする。

「ノリオは、またかまを使いだす。

サクツ、サクツ、サクツ、母ちゃん帰れ。

サクツ、サクツ、サクツ、母ちゃん帰れよう。」

ノリオの心情はどのように変化したのか

あらすじ用ストーリーマップ



登場人物の変化がわかる文を抜き出し、書く。

『川とノリオ』ストーリーマップ

氏名

上段からわかる登場人物のおかれた状況を考え、書く。

登場人物の心情を考えるストーリーマップ

『川とノリオ』ストーリーマップ

氏名

児童の実態をふまえて、登場人物の心情を考えさせたい叙述を
あらかじめ抜き出し、下段に書かせる。

『川とノリオ』ストーリーマップ

夏 八月六日 お父さんの夜まわし

八月六日

黒いゴムぐつは帰るまで
あきらめず履きまわす。
黒いパンツも履きまわす。
肌や青の輪がくさる。
ノリオは高まる川の音。

近所の人々がせわしく出入
する。
おそろしそうな人々のまな
さの戸。

りつくような鉛色の川。
線がヒールの泣き声。
オの家のあちる方へは見え
ない。鉛色の中のままだい。

氏名

『川とノリオ』ストーリーマップ

また八月の六日 エピソード

また八月の六日が来る

じいちゃんノリオだまってる。

ノリオは青いガラスの
かけらをぼんと川の水に
投げてやがにすくさまふ
しい日の光がノリオの
世界に返ってきた。
ノリオは仕事も思ひ出す。

ノリオは、かまをまた
使出す。
サッ、サッ、サッ、
母さん帰れ
サッ、サッ、サッ、
母さん帰れ

氏名

さうして川は日の光を照り返して、ノリオは涙を流す。

ブックレビュー

川とノリオ

作者 (いぬい とみこ)

戦争があったころ大島にノリオという二才の何もしない幸せな男の子がいた。ある年の八月六日、母ちゃんが帰ってこない。ながしたものも帰ってこない。そして父ちゃんも箱で帰ってきた。小2になったノリオはいろいろなことを知っている。すくなく成長した。母ちゃんが帰ってこないときに、黒いゴムくつは帰ってこない。麦わら帽子も帰ってこない。黒いパンツも行ったきり…。この表現からなにもか も帰ってこないというノリオの気持ち がすくなく伝わってきます。

ブックレビュー

川とノリオ

作者 (いぬい とみこ)

戦争があったころ、ノリオという元気な子がいた。ノリオは、川にものをながしてあそんでいた。そのころ、父ちゃんは戦争に行けた。八月六日のあの日、ノリオのながしたものがかえってこなかった。母ちゃんもどこかに行ってしまった。秋が来て、父ちゃんがかえってきた。小さな箱で。母ちゃんをまちつづけたあの日。小学二年生になり、ノリオはじいちゃんのやぎ、このくさかりのてつだいをしている。「サク、サク、サク、母ちゃん帰るう。」ここからノリオのどんな気持ちかわかりますか。

ブックレビュー

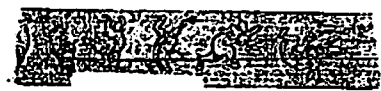
川とノリオ

作者 (いぬい とみこ)

今日は来なかった... 戦争があったころ広島
の近くに川が好きなノリオという男の子がいた。戦争の中、
何も知らず、明るく生きてるノリオが母ちゃんにとって、
小さな神様にも思えた。でも事件があきた...。
いつもノリオのおしりにおしあさる母が来ない...。
父ちゃんは帰ってきたけどもう会うことはできな...。
二年生になっても母ちゃんが大切というノリオ
の気持ちは変わらない...。

「川とノリオ」のブックレビューを書いたあと、グ
ループで読み合い、お互いの良さを伝え合った。

裏面にコメント



今日は来なかった...
というやも、一番おめい
は、おもいつけなかつたし、
いいと思った。



ノリオが成長していき、母ちゃん
の気持ちもかわるし、そうおめ
いもちは変わらない... と書いてあ
る、いいなと思った。



フックレビュー

川とパリオ

戦争があったころ広島に
男の子がいた。あ3年の八月
したものも帰ってこない。

小2になったノリオはいろいろなことを知っている。め、こく、成、長、した
、母ちゃんが帰ってこないときに黒いゴムくつは帰て
こない。麦わら帽子も帰てこない。黒いパンツも行ったきり……
この表現からなにもか も帰てこないというノリオの気持ち
がすごく伝わってきます。

ノリオがひどく成長した
ことがわかった。
理科教師の言葉の表現を、
書いていて、よかった。

の衣冠から、なににもかも、
 解、アこた、というノリオの
 気持ちか、すくて伝わ、ア
 ます。
 と言う、言葉が、すくて
 イイと思います。

7

/

戰爭

リオ

乏人な

212

わがリ物づくか、とあ、
て、はじめのころにも
わがリト可く、2113

最後に自分のいけんをかいてしまった。アリオは今日もちかう「アリオ」のところがすこくよかった。

あらうにわかれやすき書物ありと
よみたくなる文章でした。

り。又、人はつれていく。リオは何も知らず、
り。辺字に、リオはドド...

という音を聞いた。じいちゃんに連れもたされる。父ちゃんが帰ってきた。だが小さな箱にゐてゐた。また八月六日が来る…母ちゃんはヒロシマで死んだという。小学二年のノリオには父ちゃんも母ちゃんもいはい。じいちゃんもだまてゐる。ノリオには仕事がある。それはじいちゃんのエサ場の干草刈りだ。

ノリオは今日もかまをふるサク、サク、サク、母さん、帰れと。もう二さいのころとはちがうノリオ。この気持ちの変化がこの牛物語の良いたころ。

ブックレビュー

おこたてませんように 作者 (くすのき しげのり)

年生の男の子がいた。この男の子はいつもおこられる。本当は、いいにやなうて言われたいのにな、いつもおこられる。

そんな男の子は、7月の7日、たなばたの日に、たんざくに、「おこたてませんように」と書いた。

これを見た先生は、泣いていた。

先生、いつもおこってばかりだったね。

そのとき、男の子はどう思ったと思いますか。

そのよる、先生から電話があった。そして男の子と、いつまでもたつきしめていた。

ブックレビュー

水の精とふしぎなカヌー 作者 (岡田 淳)

こそあどの森の物語

こそあどの森には、不思議な家に住む個性豊かな住人たちがいる。

ひとつめの話 トリオトコのワルツ

トワイエさんは、けがをして、スミレさんの家に泊まっていた。ノートをとりに行くと、スキッパー。らせん階段にはたくさんの落ち葉が。こんど、そうじてあげよう。とつぶやき、帰っていた。また、行くと、階段がきれいになっていた。のぼってみると、何もないのにころんでしまった。一なにかけた...? だれがいるのだろう。

ふたつめの話 ふしぎなカヌー

ふたごが、ツクシ、ワラビと呼びあっていたころ。川から小さなカヌーが流れてきた。「これ、ひとがつくたとは思えない。夢をふくらませ話すふたご。

スキッパーと調査しよう。

[The page contains faint horizontal lines, suggesting it was part of a lined notebook or document.]

著者名等	書 名	出版社
遊川和彦	さとうきび畑の唄	汐文社
比嘉富子	白旗の少女	講談社
赤座憲久	ふわり太平洋	小峰書店
今西祐行	兄ちゃんのいた夏	理論社
	語りつぐ戦争体験	草土文化
木村靖子	白い町ヒロシマ	金の星社
早乙女勝元	さようならカバくん	金の星社
早乙女勝元	絵本 東京大空襲	理論社
竹田まゆみ	あしたへげんまん	新日本出版社
高木敏子	ガラスのうさぎ	金の星社
	ヒロシマのうた	小峰書店
松谷みよ子	ふたりのイーダ	講談社
	戦後50年学童疎開の子どもたち	汐文社
児玉辰春	ヒロシマ心の旅路	岩崎書店
たなべまもる	そして、トンキーもしんだ	国土社
	「集団自決」なぜ	新日本出版社
	ガマであったこと	新日本出版社
今丈ヒロ子	パンプキン！	講談社
	戦争と平和のものがたり	ポプラ社
桜井信夫	デイゴの花	国土社

- 1 単元名 物語の世界を想像して、音読したり、えんじたりしよう
教材名『ぞろぞろ』

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、国語科指導要領の以下を受けて設定した。

C 読むこと

(1) ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

(1) イ (ア) 言語には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

イ (オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

「ぞろぞろ」は、江戸時代から伝わる、日本代表の話芸である「落語」の演目の一つである。落語家の独特の語り口の中から、庶民の飾り気のない生活ぶりや生き生きとした話し言葉を通じて、登場人物の願いや感情にふれていく。登場人物にあった言葉の抑揚や強弱に注意したり、会話と会話の間のとりかたに気をつけたりしながら音読を工夫していくことをねらいとしている。

会話を中心に物語が展開するのは、必ずしも落語のみではない。3年生で学習した『のらねこ』もまた、会話を中心に話が進んでいく。会話には、それを語る人物の性格や生い立ち、そのときの気持ちやおかれた状況が反映されている。それらは、声の大小、速さ、強弱、あるいは、抑揚・間などによって表現される。それぞれの会話がその人物のどのような性格を反映しているのか、また、どのような状況の中で語られているのか想像しながら音読したり、演じたりさせたい。

どのように音読したらよいかについて、グループや学級全体での話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、友達の新たな考えに気づかせたりしながら、人前で話す経験を重ねていきたい。

(2) 児童の実態

本単元を指導するにあたり、下記のような実態調査を行った。

(実施日 平成29年5月31日 男子19名 女子14名 計33名)

① 国語は好きですか。

好き 17名 漢字を書くのが好き (5名)

発表が好き (1名)

音読や本を読むことが好き (3名)

文章問題で正解すると楽しい (1名)

登場人物の気持ちがわかる (2名)

段落ごとのまとめるのが好き (1名)

読むのが楽しい (2名)

漢字や文章問題が好き (1名)

自分で考えて書くのが好き (1名)

嫌い 16名 文章問題が苦手 (3名)

文を読むのがあまり好きではない (3名)

文章を書くのが苦手 (3名)
学力テストがよい点ではなかった (2名)
漢字が好きでない (2名)
字がうまく書けない (1名)
難しい (1名)
漢字が覚えられない (1名)

② 落語を知っていますか。

知っている 10名 最後に落ちがある。(3名)
おもしろい (3名)
テレビで見たことがある。(4名)
知らない 23名

③ 落語でほかの話を知っていますか。

まんじゅうこわい 3名 初天神 1名 じゅげむ 2名
ばけものつかい 1名

④ 音読は好きですか。

好き 25名 楽しい 読むことが好き 言葉を覚えられる
うまいと褒められる 読む練習になる すらすら読める
嫌い 8名 読むのが苦手 長い文を読みたくない 読むのが面倒
声を出して読むのが嫌い 大きな声で話すのが苦手

⑤ 人前で音読することは好きですか。

好き 10名 楽しい 3名 おもしろい 1名 人前が好き 1名
得意 1名 その他 4名
嫌い 23名 恥ずかしい 16名 声が小さい 5名 苦手 1名
笑われたら困る 1名

⑥ 音読をする時、どんなことに注意していますか。(複数回答)

はっきり 7名 聞きやすく 3名
大きな声で 13名 気持ちを込める 5名
すらすら 5名
読み間違いをしない 5名
声の大きさ 6名

本学級の児童は、アンケートから国語が好きと答えた児童は、半数であった。主な理由は、漢字を書くのが好き、音読や本を読むことが好きということである。反面、嫌いな理由は、文章問題が苦手、文章を読むのがあまり好きでないということである。

落語については、3分の2の児童は知らないと答えている。

また、音読は好きだと感じている児童が多いが、人前で音読することが好きな児童は3分の1である。人前で音読するのは、恥ずかしいと感じている児童が多い。音読をする際には、大きな声ではっきりと読んだり、気持ちを込めて読んだりするように心がけている児童が多いということがわかった。

(3) 指導観

仮説1 児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

① 単元のゴールの設定

単元のゴールを好きな場面を選び、音読したり、演じたりして3年生に「そろそろ」のおもしろさを伝えようと設定した。落語を知らないという児童が多かったので、実際に落語を語っている映像を見せたい。映像を見ることで工夫して音読したり、演じたりすることがどのようなことかをつかむことができると考えた。

また、音読したり、演じたりするには、登場人物の様子や性格を考えなければならない。そこで、会話やせりふを読み取り音読に生かしていく。人物の性格や生い立ちそのときの気持ちやおかれた状況は、声の大小、速さ、強弱、抑揚、間などによって表現される。それにしぐさや表情が加われば、聞き手の3年生により生き生きと話が伝わると考える。その人物にあった言葉の抑揚や強弱に注意したり、会話と会話の間の取り方に気をつけたりしながら、音読を工夫させたい。

② グループ活動

みんなの前で音読するのが好きではないという児童が多いので、グループで好きな場面を選ばせる。どのように音読したらよいか、グループや学級全体での話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、友達の新たな考えに気づかせたりしながら、人前で話す経験を重ねさせたい。

③ 音読台本

音読記号を使って音読台本を作らせ、練習させたい。できあがったものはグループで音読したり、演じたりして気がついたことを交流し合いたい。

仮説2 言語を増やしたり獲得したりするための活動を工夫していけば、より適切な言葉や方法を用いて表現することができるだろう。

① 音読について

毎日国語で学習している単元の音読を宿題にしている。気持ちを込めて読んだり、大きな声ではっきり読ませるためである。今回の授業展開にあたり、なじみの少ない落語については、話し方の違いに気づかせるために前もって音読をさせた。そうすれば、登場人物の性格を生かした表現の工夫ができると考えた。

② ことわざの紹介

言語を増やすために、日直の児童が毎日2つずつことわざの紹介をしている。紹介されたことわざは、全員が記録するようにしている。

3 単元の目標

○場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読したり、演じたりしようとしている。

(関心・意欲・態度)

○場面の様子や登場人物の性格を想像しながら、聞き手に様子がよく伝わるように音読することができる。

(読むこと)

○場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読したり、演じたりすることができる。

(読むこと)

○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画（5時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（観点）[方法]〈仮説〉
見 出 す	1	○「ぞろぞろ」を全文読み通す。 ○学習計画を立て、単元の見通しをもつ。 落語「ぞろぞろ」を音読したり、演じたりして、3年生におもしろさを伝えよう。	・全文を読み通し、感想をノートに書き、発表しようとしている。 （関心・意欲・態度）[ノート・発表]
調 べ る 深 め る	3 本時 2/5	○会話のやりとりや話の展開のおもしろさを見つける。 ○おもしろさが伝わるように工夫して音読する。	・会話のやりとりや話の展開のおもしろさを話し合っている。 （読むこと）[ノート・発表] ・おもしろさが伝わるように音読している。 （読むこと）[練習・発表]
		○グループで好きな場面を選んで、音読したり、落語のように演じたりする。 ○おもしろさが伝わる音読の仕方を考え、練習する。	・好きな場面を選んで、音読したり、落語のように演じたりしている。 （読むこと）[音読台本の書き込み、音読の様子]〈仮説1〉 ・友達と協力し、おもしろさが伝わる音読の仕方を考え、練習しようとしている。 （関心・意欲・態度）[練習]
ま と め あ げ る	1	○音読発表会をし、感想を話し合う。	・音読発表会をし、感想を話し合っている。（読むこと）[発表]〈仮説1〉

5 本時の指導（2/5）

（1）目標

- 会話のやりとりや話の展開のおもしろさを見つけることができる。（読むこと）
- おもしろさが伝わるように音読することができる。（読むこと）

(2) 指導計画 (5時間扱い)

時配	学習内容と学習活動 (☆主発問)	指導・支援 ○評価 (仮説との関わり)	資料
2	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習のめあてを確かめる。		掲示物
	ぞろぞろのおもしろいところを見つけよう。		
15	2 この話のおもしろいところを見つけてノートに書き出す。 ☆「ぞろぞろ」でおもしろいところを見つけて書きましょう。 (話の内容や展開) ・天井からわらじがぞろぞろ出てくるところ。 ・お客がわらじを買いにぞろぞろきたところ。 ・とこ屋の親方が「ごりやく」を期待している。 ・最後、そったひげがぞろぞろはえてくるところ。 (言い回し、言葉のリズム) ・ぞろぞろわらじの行列が浅草から大阪まで・・・ ・失礼ですが、あなた様はどちら様・・・？ ・会話がおもしろい。	・話の内容や話の展開でおもしろいところ、言い回しや言葉のリズムでおもしろいところを見つけて書かせる。 ・なぜおもしろいか理由も考えさせる。	
10	3 書き出したことを発表する。なぜおもしろいか理由も発表する。 ・茶店のじいさんとばあさんの会話がおもしろい。 ・ないはずのわらじがぞろぞろ出てくるところがおもしろい。 ・とこ屋の親方が自分の店に来たお客を見て話した言葉がおもしろい。 ・とこ屋の親方はごりやくがあったと喜んだが、ひげがあとからあとからぞろぞろはえてくるところがおもしろい。	・話の展開にそって、おもしろいと感じたところを発表させる。 ・おもしろいと思った理由をそえて発表するように助言する。 ○会話のやりとりや話の展開のおもしろさを発表することができる。 (読むこと) [ノート・発表] (仮説1)	
5	4 おもしろさが伝わるように音読するにはどうしたらよいかを話し合う。 ・声の大きさに気をつける。 ・声をかえる。 ・読む速さに気をつける。	・登場人物の話し方の違いに気づかせる。 ○おもしろさが伝わるように音読しているか。 (読むこと) [練習・発表] (仮説1)	

10	・動作をつける。 5 自分の選んだところを音読し、グループで発表し合う。 ・よくできたところを伝える。 ・もう少し気をつけた方がよいところを伝える。	・自分が書き出した中から 1 つ選ばせて音読させる。 ・3, 4 人の小グループで発表し合う。	
3	6 次時の予告をする。 ・グループで好きな場面を選び、音読練習をすることを伝える。		

(3)板書計画

ぞろぞろ

三遊亭円窓

ぞろぞろのおもしろいところを見つけよう。

おもしろさ

○話の内容や展開

天井からわらじがぞろぞろ出てくるところ。
 お客がわらじを買いにぞろぞろきたところ。
 とこ屋の親方が「ごりやく」を期待している。
 最後、そったひげがぞろぞろはえてくるところ。

○言い回しや言葉のリズム

ぞろぞろわらじの行列が浅草から大阪まで・・・
 失礼ですが、あなた様はどちら様・・・？
 会話がおもしろい。

おじいさんとおばあさんのやりとり
 おじいさんとお客のやりとり

仮説2 言語を増やしたり獲得したりする活動

○音読カードを活用した音読の継続

1 学年

2 学年

おんどくかあど (2) まいめ

1 ねん 1 くり

○こくごのきょうかしよを こえにだしてよみましょう。
 ・つかえずに すらすらとよめるように れんしゅうしましょう。
 ・てんや まるにきをつけて よみましょう。
 ・はつきりと ちょうどよいこえのおおきさで よみましょう。
 ・さもちや ようずにあわせて よめるようにしましょう。

保護者の方へ
 ・お子さんが読んだお国のマスの日にも (5/8のように) を書いてください。
 何日読んでも、1日に1マスでお読みします。

だ い め い	日にちのサイン					せんせいより
くまさんとありさんの ごあいさつ	6/10	7/1	7/4	7/5	7/12	
あいうえおのうた	6/10	7/1	7/4	7/5	7/12	
おおきなかぶ	6/10	7/1	7/13			
けむりのきしゃ	6/10	7/1	7/4	7/5	7/12	
がきくけこのうた	6/10	7/1	7/4	7/5	7/12	
すずめのくらし			7/2	7/5	7/12	

音読・けいさんカード 名前 ()

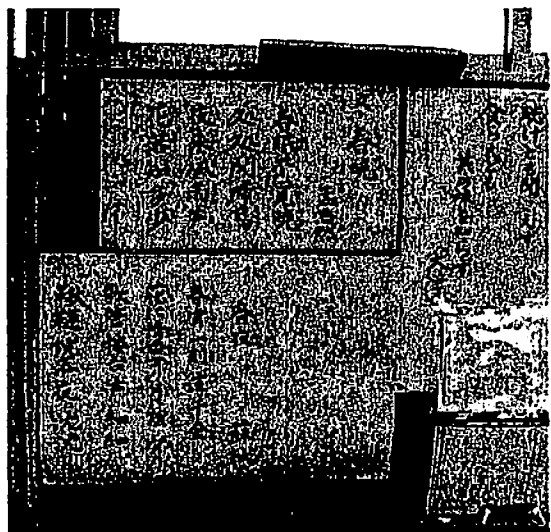
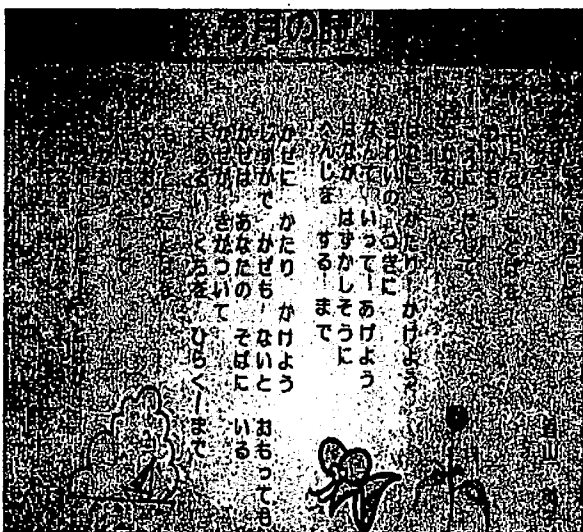
声の大きさや、口のあけかた、「し」「ん」に気をつけること、気持ちをこめたり書いてあることをたしかめたりしながらよみましょう。
 ・けいさんカード2 (きんすうセットのもの)・かけざん九九は2学年からおこないます。

月 日	読んだところ	けいさん	おうちの人から	せんせい
4/12	ふーいどん!	ひきざん(1)	ちうきんきちう のてね。	
4/14	よくばりな犬	ひきざん	きききききき のりーんだー	
4/15	ふーいどん!	ひきざん	いこうき よめい	
4/16	はちまきいし	ひきざん	かえりて よめい	
4/17	ふーいどん!	たしざん	けんきんきん かきききき	
4/18	よくばりな犬	たしざん	きききききき のりーん	
4/19	パンとケロの ごあいさつ	たしざん	ちうきん ききききき	
4/20	ふーいどん!	たしざん	ききききき のりーん	
4/21	パンとケロの ごあいさつ	たしざん	けんきんきん かきききき	
4/22	おおきなかぶ	たしざん	ききききき のりーん	
4/23	おおきなかぶ	たしざん	ききききき のりーん	
4/24	おおきなかぶ	たしざん	ききききき のりーん	
4/25	おおきなかぶ	たしざん	ききききき のりーん	
4/26	えい	たしざん	けんきんきん かきききき	
4/27	あまのこ	たしざん	けんきんきん かきききき	

○詩の音読 朝の会で「今月の詩」を全員で音読する。

3 学年

5 学年



○語彙を増やす。

6 学年 言葉のノート

言葉を書き留めるミニノートを作り、学んだ言葉を継続して記録する。

学習用語

				オノマトペ	倒置法	リフレイン	比喩	体言止め
				音を表す語、例「ササヤカ」	ふさふさゆれれる三角旗を。	すすきのほか、ばらで旗をふた。	くり返す表現。	名詞で終わる。
							まろびくような。	

自主的な語句調べ

すいこう	うかい	ひとしきり		しうのう	うとい	アンサンブル	はぶりのよい	たかぶら	りう線
詩や作文をよりよくするため、練習する。	回り道をすること。	しばらくの間、続くようす。	11年とあめいの結晶。	くすのこの幹や根からとれたおのの強	よく知らない。	ひとそらひの婦人服。	その人の世の中ひの勢い。	強く激しくなる。興奮する。	山の頂上から頂上へと続く線。

4 学年 ことわざの紹介

言語を獲得するため、日直の児童が毎日二つずつことわざの紹介をしている。

